

| | |
|----------|---------------------------------------|
| 学科・年次 | 柔道整復科・2学年 |
| 科目名 | スポーツ栄養学 |
| 担当者 | 太田侑亜 |
| 単位数（時間数） | 2単位(34時間) |
| 学習方法 | 主に講義による |
| 教科書・参考書 | スポーツ栄養(ベースボールマガジン社)、ビジュアル食品成分表(大修館書店) |

| |
|---|
| 授業概要と目的 |
| <p>栄養学の基礎となる栄養素について学び、人体における働きを理解する。</p> <p>そしてスポーツ競技者に対しての特性を考え、食生活アドバイスが適切に行えることを目的とする。</p> <p>管理栄養士として実務経験のある者が、その経験を活かし授業を行う。</p> |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|--|----------------------------------|------|
| 1 | 前期 | 1. ガイダンス 栄養の必要性を知る。 | ①栄養のことを学ぶ意義と目的を知る。 | 太田侑亜 |
| 2 | 前期 | 2. 炭水化物 炭水化物の種類、身体における役割について知る。 | ①炭水化物が体内でどのような働きをするかを説明できる。 | 太田侑亜 |
| 3 | 前期 | 3. 脂質 脂質の種類、身体における役割について知る。 | ①脂質が体内でどのような働きをするかを説明できる。 | 太田侑亜 |
| 4 | 前期 | 4. タンパク質 タンパク質の種類、身体における役割について知る。 | ①タンパク質が体内でどのような働きをするかを説明できる。 | 太田侑亜 |
| 5 | 前期 | 5. ビタミン ビタミンの種類、身体における役割について知る。 | ①ビタミンが体内でどのような働きをするかを説明できる。 | 太田侑亜 |
| 6 | 前期 | 6. ミネラル（無機質） ミネラル（無機質）の種類、身体における役割について知る。 | ①ミネラル（無機質）が体内でどのような働きをするかを説明できる。 | 太田侑亜 |

| | | | | |
|--------|----|---|--|------|
| 7 | 前期 | 7. 機能性成分 機能性成分の種類、身体における役割について知る。 | ①機能性成分が体内でどのような働きをするかを説明できる。 | 太田侑亜 |
| 8 | 前期 | 8. 栄養価計算 食事の栄養価の算出方法を知り、修得する。 | ①食事の栄養価計算について、どのように算出するかを説明できる。 | 太田侑亜 |
| 9 | 前期 | 9. 消化と吸収、代謝について知る。 | ①身体のしくみ、特に食べ物が体内で分解・利用される過程について説明できる。 | 太田侑亜 |
| 10 | 前期 | 10. 身体組成について知る。 | ①身体組成の測定法とデータの見方について説明できる。 | 太田侑亜 |
| 11 | 前期 | 11. エネルギー代謝について知る。 | ①エネルギー代謝と消費について説明できる。 | 太田侑亜 |
| 12 | 前期 | 12. コンディショニングのための栄養①：自己管理について知る。 | ①各アスリートに合った食事をするために、どのように自己管理するかについて説明できる。 | 太田侑亜 |
| 13 | 前期 | 13. コンディショニングのための栄養②：アスリート食に組み立て方について知る。 | ①アスリート食の組み立て方について、どのように組み立てるかを説明できる。 | 太田侑亜 |
| 14 | 前期 | 14. 競技力向上のための栄養①：水分摂取について知る。 | ①水分摂取のタイミングと内容について説明できる。 | 太田侑亜 |
| 15 | 前期 | 15. 競技力向上のための栄養②：試合前、当日、試合後の食事について知る。 | ①試合前、当日、試合後の食事について説明できる。 | 太田侑亜 |
| 16 | 前期 | 16. 年齢別のスポーツ栄養の考え方について知る。 | ①年齢別の栄養サポートとの関わり方を説明できる。 | 太田侑亜 |
| 17 | 前期 | 17. テストとこれまでのまとめ | ①試験と解説を行い、栄養素の役割や必要性について理解できる。 | 太田侑亜 |
| 成績評価方法 | | 試験による成績（100点）により評価する。 | | |
| 準備学習など | | 当該項目に当たる教科書を事前に復習しておく。 授業項目によっては電卓を持参。 | | |

| | |
|----------|--|
| 学科・年次 | 柔道整復科・2 学年 |
| 科目名 | 解剖学 III |
| 担当者 | 桑原裕子 |
| 単位数（時間数） | 2 単位（34 時間） |
| 学習方法 | おもに講義によるが、グループワークやビデオを活用する |
| 教科書・参考書 | 解剖学(医歯薬出版)、プロメテウス解剖学アトラス、解剖学総論運動器系(医学書院) |

| 授業概要と目的 |
|---|
| <p>柔道整復師が知っておくべき解剖学の知識は格段に増えている。解剖学では身体の成り立ちを学び、医療との接点を容易につかめる内容としたい。特に人間の全体像について、その成り立ちや働き、そしてどのような異常が疾患につながるのかなど分野横断的に理解する力をつけるために、正常な人体の仕組みについて、細胞のレベルから組織、器官、個体に至るまでを系統的に修得する。正常構造と正常な機能を知ってはじめて人体の病的変化を理解することができる。人体の地図帳ともいべき膨大な解剖学の知見のうちから基本となるものを理解し、専門用語を修得する。</p> <p>解剖学Ⅲでは、内臓系（消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器）に焦点を当て、その細胞構成、組織構築、各臓器について、細胞学的・肉眼解剖学的知見を医師として臨床経験のある者が、その経験を活かし授業を行う。</p> <p>獣医師として大学での解剖学講師として経験のある者が、その経験を活かし授業を行う。</p> |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|---------------------|---|------|
| 1 | 通 年 | 消化器の働き 消化器の種類と構造 | 消化器の働きと種類や構造についての特徴を説明できる。 | 桑原裕子 |
| 2 | 通 年 | 口 口腔腺 歯 舌 | 口および口腔内の構造について学習し、重要となる構造の位置や機能について説明できる。 | 桑原裕子 |
| 3 | 通 年 | 咽頭 食道 | 咽頭と食道の位置や部位名称について説明できる。 | 桑原裕子 |
| 4 | 通 年 | 胃 小腸 | 胃や小腸の特徴的な構造について説明できる。 | 桑原裕子 |
| 5 | 通 年 | 大腸 | 大腸の位置や特徴的な構造について説明できる。 | 桑原裕子 |
| 6 | 通 年 | 肝臓と胆道 | 肝臓や胆嚢の特徴的な構造や機能について説明できる。 | 桑原裕子 |

| | | | | |
|----|-----|------------------------|--|------|
| 7 | 通 年 | 膵臓 腹膜 | 外分泌腺であり内分泌腺でもある膵臓の特徴や構造について説明できる。腹膜の構造について説明できる。 | 桑原裕子 |
| 8 | 通 年 | 消化器まとめ | これまで学習した内容について知識の定着度を確認する。 | 桑原裕子 |
| 9 | 通 年 | 呼吸器の働き 外鼻 鼻腔と副鼻腔 咽頭 | 呼吸器の働き、外鼻から咽頭までの構造について、その特徴的な部位や機能を理解し説明できる。 | 桑原裕子 |
| 10 | 通 年 | 喉頭 気管および気管支 | 咽頭から気管支までの構造について、その特徴的な部位や機能を理解し説明できる。 | 桑原裕子 |
| 11 | 通 年 | 肺 | 肺の構造について、その特徴的な部位や機能を理解し説明できる。 | 桑原裕子 |
| 12 | 通 年 | 胸膜 縦隔 | 胸膜や縦隔の構造、内部に存在する臓器について説明できる。 | 桑原裕子 |
| 13 | 通 年 | 泌尿器の働き 腎臓 | 泌尿器の働き、腎臓の構造や機能について説明できる。 | 桑原裕子 |
| 14 | 通 年 | 尿管 膀胱 尿道 | 尿管から尿道までの構造やその特徴的な部位について説明できる。 | 桑原裕子 |
| 15 | 通 年 | 生殖器の働き 男性性器生殖器 | 生殖器の働き、男性生殖器について、その特徴的な部位や機能を説明できる。 | 桑原裕子 |
| 16 | 通 年 | 女性性器 | 女性生殖器について、その特徴的な部位や機能を説明できる。 | 桑原裕子 |

| | | | | |
|--------|-----|---------------------------|----------------------------|------|
| 17 | 通 年 | まとめと試験 | これまでの内容について試験を行い、学習度を評価する。 | 桑原裕子 |
| 成績評価方法 | | 成績評価は試験結果に出席率と受講態度を加味する。 | | |
| 準備学習など | | 復習を重視し、当日のうちに到達目標を達成しておく。 | | |
| | | | | |

| | |
|----------|-----------------|
| 学科・年次 | 柔道整復科・2 学年 |
| 科目名 | 生理学Ⅲ |
| 担当者 | 中村浩 |
| 単位数（時間数） | 2 単位(34 時間) |
| 学習方法 | 講義 |
| 教科書・参考書 | 南江堂 生理学 改訂第 3 版 |

| |
|---|
| 授業概要と目的 |
| 1 年次に養った生理学の知識をもとに、全体の復習を行う。同時に問題演習等を用いた応用的な生理学の考え方を養うことで知識を正しくアウトプットできるようになることを目的とする。 歯科医師として臨床経験のある者が、その経験を活かし授業を行う。 |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|--|--|-----|
| 1 | 前 期 | 「生理学の基礎」 細胞の機能的構造及び受動輸送と能動輸送の項目への理解を深める。 | 「細胞の機能的構造及び物質の移動に関する項目の問題演習を用いた確認を行い復習する」 1 年次に学んだ内容を、問題を通じて具体的なアウトプットができるようになる。 | 中村浩 |
| 2 | 前 期 | 「血液の生理学」 血液、免疫機能、血液型、凝固等の血液の生理学の項目への理解を深める。 | 「血液、免疫機能、血液型、凝固等の血液の生理学に関する項目の問題演習を用いた確認を行い復習する」 1 年次に学んだ内容を、問題を通じて具体的なアウトプットができるようになる。 | 中村浩 |
| 3 | 前 期 | 「循環の生理学」 心臓の機能、血管系等の循環の生 | 「心臓の機能、血管系等の循環の生理学に関する項目の問題演習を用いた確認を行 | 中村浩 |

| | | | | |
|----|----|--|--|-----|
| | | 理学の項目への理解を深める。 | い復習する」 1年次に学んだ内容を、問題を通じて具体的なアウトプットができるようになる。 | |
| 4 | 前期 | 「呼吸の生理学」 換気、酸素・二酸化炭素の運搬、呼吸調節等、呼吸の生理学の項目への理解を深める。 | 「換気、酸素・二酸化炭素の運搬、呼吸調節等の呼吸の生理学に関する項目の問題演習を用いた確認を行い復習する」 1年次に学んだ内容を、問題を通じて具体的なアウトプットができるようになる。 | 中村浩 |
| 5 | 前期 | 「消化と吸収」 消化器系の働き、消化液、消化管ホルモン、肝臓等、消化と吸収の項目への理解を深める。 | 「消化器系の働き、消化液、消化管ホルモン、肝臓等の消化と吸収に関する項目の問題演習を用いた確認を行い復習する」 1年次に学んだ内容を、問題を通じて具体的なアウトプットができるようになる。 | 中村浩 |
| 6 | 前期 | 「栄養と代謝」 生体の構成成分と栄養素、中間代謝、エネルギー代謝等、栄養と代謝の項目への理解を深める。 | 「生体の構成成分と栄養素、中間代謝、エネルギー代謝等の栄養と代謝に関する項目の問題演習を用いた確認を行い復習する」 1年次に学んだ内容を、問題を通じて具体的なアウトプットができるようになる。 | 中村浩 |
| 7 | 前期 | 「体温とその調節」 体温、熱産生、熱放散、体温の調節等、体温とその調節の項目への理解を深める。 | 「体温、熱産生、熱放散、体温の調節等の体温とその調節に関する項目の問題演習を用いた確認を行い復習する」 1年次に学んだ内容を、問題を通じて具体的なアウトプットができるようになる。 | 中村浩 |
| 8 | 前期 | 「尿の生成と排泄」 腎臓の機能、ろ過、再吸収、分泌等、尿の生成と排泄の項目への理解を深める。 | 「腎臓の機能、ろ過、再吸収、分泌等の尿の生成と排泄に関する項目の問題演習を用いた確認を行い復習する」 1年次に学んだ内容を、問題を通じて具体的なアウトプットができるようになる。 | 中村浩 |
| 9 | 前期 | 「内分泌系の機能」 ホルモンの性質、各内分泌器官のホルモンの種類と作用に関する項目への理解を深める。 | 「ホルモンの性質、各内分泌器官のホルモンの種類と作用に関する項目の問題演習を用いた確認を行い復習する」 1年次に学んだ内容を、問題を通じて具体的なアウトプットができるようになる。 | 中村浩 |
| 10 | 前期 | 「生殖」 性分化、生殖器の構成、卵巣・月経周期、妊娠等、生殖の項目への理解を深める。 | 「性分化、生殖器の構成、卵巣・月経周期、妊娠等の生殖に関する項目の問題演習を用いた確認を行い復習する」 1年次に学んだ内容を、問題を通じて具体的なアウトプットができるようになる。 | 中村浩 |

| | | | | |
|----|-----|--|---|-----|
| 11 | 前 期 | 「骨の生理学」 骨形成と成長、骨の再吸収と再形成、骨関連ホルモン等、骨の生理学の項目への理解を深める。 | 「骨形成と成長、骨の再吸収と再形成、骨関連ホルモン等の骨の生理学に関する項目の問題演習を用いた確認を行い復習する」 1年次に学んだ内容を、問題を通じて具体的なアウトプットができるようになる。 | 中村浩 |
| 12 | 前 期 | 「体液の生理学」 体液の区分、体液量の調節、酸塩基平衡の調節等、体液の生理学の項目への理解を深める。 | 「体液の区分、体液量の調節、酸塩基平衡の調節等の体液の生理学に関する項目の問題演習を用いた確認を行い復習する」 1年次に学んだ内容を、問題を通じて具体的なアウトプットができるようになる。 | 中村浩 |
| 13 | 前 期 | 「神経の基本的機能」 静止膜電位、活動電位、興奮の伝導・伝達等、神経の基本的機能の項目への理解を深める。 | 「静止膜電位、活動電位、興奮の伝導・伝達等の神経の基本的機能に関する項目の問題演習を用いた確認を行い復習する」 1年次に学んだ内容を、問題を通じて具体的なアウトプットができるようになる。 | 中村浩 |
| 14 | 前 期 | 「神経系の機能①」 神経系の成り立ち、内臓機能の調節、視床下部による内臓機能の調節の項目への理解を深める。 | 「神経系の成り立ち、内臓機能の調節、視床下部による内臓機能の調節の神経系の機能に関する項目の問題演習を用いた確認を行い復習する」 1年次に学んだ内容を、問題を通じて具体的なアウトプットができるようになる。 | 中村浩 |
| 15 | 前 期 | 「神経系の機能②」 姿勢と運動の調節、脳の高次機能の項目への理解を深める。 | 「姿勢と運動の調節、脳の高次機能の神経系の機能に関する項目の問題演習を用いた確認を行い復習する」 1年次に学んだ内容を、問題を通じて具体的なアウトプットができるようになる。 | 中村浩 |
| 16 | 前 期 | 「筋肉の機能」 筋の種類と構造、筋収縮の仕組み、筋収縮の様式等、筋肉の機能の項目への理解を深める。 | 「筋の種類と構造、筋収縮の仕組み、筋収縮の様式等の筋肉の機能に関する項目の問題演習を用いた確認を行い復習する」 1年次に学んだ内容を、問題を通じて具体的なアウトプットができるようになる。 | 中村浩 |
| 17 | 前 期 | 「感覚の生理学」 感覚の性質、体性感覚、特殊感覚の項目への理解を深める。 ・ 科目試験 | 「感覚の性質、体性感覚、特殊感覚の感覚の生理学に関する項目の問題演習を用いた確認を行い復習する」 1年次に学んだ内容を、問題を通じて具体的なアウトプットができるようになる。 | 中村浩 |

| | |
|--------|---------------------------------|
| 成績評価方法 | 中間試験(40%) 科目試験(60%) |
| 準備学習など | 1年次に学んだ内容を改めて復習し基礎を固めることに努めること。 |
| | |

| | |
|----------|---------------------|
| 学科・年次 | 柔道整復学科・2学年 |
| 科目名 | 運動学 |
| 担当者 | 松田文浩 |
| 単位数(時間数) | 2単位(34時間) |
| 学習方法 | 講義 |
| 教科書・参考書 | 医歯薬出版株式会社 運動学 改訂第3版 |

| |
|--|
| 授業概要と目的 |
| <p>柔道整復師業を行うにあたり、人間の正常運動の分析・解析の基礎を学ぶことで疾患に対しての評価法の基盤を作り、運動機能の障害に対処するための考え方を養うことを目的とする。</p> <p>理学療法士として病院等で臨床経験のある者が、その経験を活かし授業を行う。</p> |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標(SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|--|--|------|
| 1 | 通年 | 「運動学の目的・運動の表し方」 学問としての運動学の概念及び 関節運動の表示、運動の面と軸に ついて理解する。 | 「運動学の歴史と概念及び人体の運動の表 示と運動面と軸の関係を学ぶ」 ①運動学の概念から運動学の領域と目的を 説明できる。 ②人体の関節運動の種類の違いを説明でき る。 ③人体の運動における運動面と運動軸の関 係を説明できる。 | 松田文浩 |
| 2 | 通年 | 「身体運動と力学」 運動の形、ベクトル、てこの構造、 運動の法則について理解する。 | 「身体運動に関係する運動の形、ベクトル、 てこ、運動の法則について学ぶ」 ①運動の形としての線運動と角運動につい て説明できる。 | 松田文浩 |

| | | | | |
|---|----|---|---|------|
| | | | <p>②ベクトルにおける力の合成について説明できる。</p> <p>③てこの構造と種類及び人体における効用例を説明できる。</p> <p>④ニュートンの運動の法則の概念を説明できる。</p> | |
| 3 | 通年 | <p>「運動器の構造と機能」</p> <p>骨、関節、骨格筋についての構造と機能を理解する。</p> | <p>「骨、関節、骨格筋といった運動器の構造と機能の特徴について学ぶ」</p> <p>① 骨の構造や構成成分及び発生と成長について説明できる。</p> <p>②関節の構造や関節の分類について説明できる。</p> <p>③骨格筋の構造や筋収縮、運動単位概念及び筋の働きについて説明できる。</p> | 松田文浩 |
| 4 | 通年 | <p>「神経の構造と機能」</p> <p>神経細胞、中枢・末梢神経についての構造と機能を理解する。</p> | <p>「神経細胞、中枢・末梢神経の構造と機能とそれぞれの特徴について学ぶ」</p> <p>①神経細胞の構造や神経線維の特徴について説明できる。</p> <p>②体性神経と自律神経の基本内容について説明できる。</p> <p>③脊髄と脳及び錐体路と錐体外路の基本内容について説明できる。</p> | 松田文浩 |
| 5 | 通年 | <p>「運動感覚・反射と随意運動」</p> <p>感覚の種類と運動感覚及び反射の仕組みと種類について理解する。</p> | <p>「感覚の種類と筋紡錘等含む運動感覚及び反射の特徴と仕組み、種類について学ぶ」</p> <p>①感覚の種類と運動感覚についての説明ができる。</p> <p>②反射の特徴と発生の仕組みについて説明できる。</p> <p>③反射中枢の部位による分類を説明できる。</p> | 松田文浩 |
| 6 | 通年 | <p>「上肢帯の運動」</p> <p>上肢帯の骨格、関節、筋と運動について理解する。</p> | <p>「上肢帯に属する骨と関節及び筋と運動の関係について学ぶ」</p> <p>①上肢帯に属する骨と関節について説明できる。</p> <p>②上肢帯の筋と関節運動について説明できる。</p> | 松田文浩 |

| | | | | |
|----|----|---|--|------|
| 7 | 通年 | 「肩関節、肘関節、前腕の運動」 肩、肘、前腕の骨格、関節、筋と運動について理解する。 | 「肩、肘、前腕といったいわゆる上肢の骨、関節、筋と運動の関係について学ぶ」 ①上肢に属する骨と関節について説明できる。 ②上肢の筋と関節運動について説明できる。 | 松田文浩 |
| 8 | 通年 | 「手関節と手の運動」 手関節及び手の骨格、関節、筋と運動について理解する。 | 「手関節及び手に属する骨、関節、筋と運動の関係について学ぶ」 ①手関節及び手に属する骨と関節について説明できる。 ②手関節及び手の筋と関節運動について説明できる。 | 松田文浩 |
| 9 | 通年 | 「股関節の運動」 股関節の骨格、関節、筋と運動について理解する。 | 「股関節の骨、関節、筋と運動の関係について学ぶ」 ①股関節に属する骨と関節について説明できる。 ②股関節の筋と関節運動について説明できる。 | 松田文浩 |
| 10 | 通年 | 「膝関節及び足関節と足の運動」 膝関節及び足関節と足の骨格、関節、筋と運動について理解する。 | 「膝関節及び足関節と足の骨、関節、筋と運動の関係について学ぶ」 ①膝関節及び足関節と足に属する骨と関節について説明できる。 ②膝関節及び足関節と足の筋と関節運動について説明できる。 | 松田文浩 |
| 11 | 通年 | 「体幹と脊柱の運動」 体幹と脊柱の骨格、関節、筋と運動について理解する。 | 「体幹と脊柱の骨、関節、筋と運動の関係について学ぶ」 ①体幹と脊柱に属する骨と関節について説明できる。 ②体幹と脊柱の筋と関節運動について説明できる。 | 松田文浩 |
| 12 | 通年 | 「頸椎及び胸椎と胸郭の運動」 頸椎及び胸椎と胸郭の骨格、関節、筋と運動について理解する。 | 「頸椎及び胸椎と胸郭の骨、関節、筋と運動の関係について学ぶ」 ①頸椎及び胸椎と胸郭に属する骨と関節について説明できる。 ②頸椎及び胸椎と胸郭の筋と関節運動について説明できる。 | 松田文浩 |

| | | | | |
|--------|----|---|---|------|
| 13 | 通年 | 「腰椎、仙椎、骨盤及び顔面の運動」 腰椎、仙椎、骨盤及び顔面の骨格、関節、筋と運動について理解する。 | 「腰椎、仙椎、骨盤及び顔面の骨、関節、筋と運動の関係について学ぶ」 ①腰椎、仙椎、骨盤及び顔面に属する骨と関節について説明できる。 ②腰椎、仙椎、骨盤及び顔面股関節の筋と関節運動について説明できる。 | 松田文浩 |
| 14 | 通年 | 「姿勢」 姿勢と重心の関係、立位姿勢の安定性について理解する。 | 「姿勢と重心の関係、重心線の通る線と立位姿勢の安定性の条件と抗重力筋について学ぶ」 ①姿勢と重心、立位姿勢の重心線について説明ができる。 ②立位姿勢の安定性について説明できる。 ③抗重力筋の種類と作用について説明できる。 | 松田文浩 |
| 15 | 通年 | 「歩行①」 歩行周期と歩行の運動学的分析について理解する。 | 「歩行の用語と歩行周期の内容及び歩行の運動学的分析について学ぶ」 ①歩行の用語と歩行周期の一連の流れを説明できる。 ②重心移動の軌跡や関節運動の流れを説明できる。 | 松田文浩 |
| 16 | 通年 | 「歩行②」 歩行時の筋活動と異常歩行について理解する。 | 「歩行時の下肢・上肢の筋活動と異常歩行の種類について学ぶ」 ①歩行周期と筋活動の関係を説明できる。 ②異常歩行の種類と原因の関係を説明できる。 | 松田文浩 |
| 17 | 通年 | 「運動発達・運動学習」 乳幼児期の運動発達及び運動技能の学習の流れについて理解する。 科目試験 | 「乳幼児期の反射と運動発達の流れ及び運動技能獲得の際の流れについて学ぶ」 ①乳幼児の運動発達の順番を説明できる。 ②乳幼児期の反射の出現と消失について説明できる。 ③運動学習の定義と技能学習の過程を説明できる。 | 松田文浩 |
| 成績評価方法 | | 中間試験(40%) 科目試験(60%) | | |
| 準備学習など | | 教科書を用いた予習復習に努めること。また、解剖学・生理学をあらかじめ理解しておくこと。 | | |
| | | | | |

| | |
|----------|----------------------------|
| 学科・年次 | 柔道整復科・2学年 |
| 科目名 | 病理学概論 I |
| 担当者 | 加藤裕美 |
| 単位数（時間数） | 2単位(34時間) |
| 学習方法 | 主に講義による |
| 教科書・参考書 | 社団法人全国柔道整復学校協会監修教科書(病理学概論) |

| |
|---|
| 授業概要と目的 |
| <p>病理学は病気の病因と病態と形態学的に解明する学問で、医療従事者にとり、必須の知識である。機能が障害される原因と機序に関する理解を深め、柔道整復師の視点から身体機能の低下や障害の原因、機能の回復と促進を図るための知識を修得する。歯科医師として臨床経験のある者が、その経験を活かし授業を行う。</p> |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|--|--|------|
| 1 | 通 年 | 柔道整復師が必要とする病理学 の概念を理解する。 | 柔道整復師として必要である病理学 の概念を理解し、正常な細胞のしく みについて述べるができる。 | 加藤裕美 |
| 2 | 通 年 | 柔道整復師が必要とする病理学 的基礎とその代表的疾患について 理解する① | 柔道整復師として必要である病気 の原因(主に外因と内因)について理 解し述べるができる。 | 加藤裕美 |
| 3 | 通 年 | 柔道整復師が必要とする病理学 的基礎とその代表的疾患について 理解する② | 柔道整復師として必要である病気 の原因(医原病と公害病、感染症) について理解し述べるができる。 | 加藤裕美 |
| 4 | 通 年 | 柔道整復師が必要とする病理学 的基礎とその代表的疾患について 理解する③ | 柔道整復師として必要である先天 異常と遺伝子異常について理解し 述べるができる。 | 加藤裕美 |
| 5 | 通 年 | 柔道整復師が必要とする病理学 的基礎とその代表的疾患について 理解する④ | 柔道整復師として必要である代謝 障害(萎縮、壊死)について理解し 述べるができる。 | 加藤裕美 |
| 6 | 通 年 | 柔道整復師が必要とする病理学 的基礎とその代表的疾患について 理解する⑤ | 柔道整復師として必要である代謝 障害(変性・老化)について理解し 述べるができる。 | 加藤裕美 |
| 7 | 通 年 | 柔道整復師が必要とする病理学 的基礎とその代表的疾患について 理解する⑥ | 柔道整復師として必要である循環 障害(充血、うっ血、出血)について 理解し述べるができる。 | 加藤裕美 |

| | | | | |
|--------|----|------------------------------------|--|------|
| 8 | 通年 | 柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑦ | 柔道整復師として必要である循環障害(リンパ液の循環障害、脱水、高血圧)について理解し述べることができる。 | 加藤裕美 |
| 9 | 通年 | 柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑧ | 柔道整復師として必要である炎症(原因、形態学的変化)について理解し述べるができる。 | 加藤裕美 |
| 10 | 通年 | 柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑨ | 柔道整復師として必要である炎症(炎症の分類)について理解し述べるができる。 | 加藤裕美 |
| 11 | 通年 | 柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑩ | 柔道整復師として必要である免疫について理解し述べるができる。 | 加藤裕美 |
| 12 | 通年 | 柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑪ | 柔道整復師として必要であるアレルギーについて理解し述べるができる。 | 加藤裕美 |
| 13 | 通年 | 柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑫ | 柔道整復師として必要である腫瘍(定義、手転移、診断)について理解し述べるができる。 | 加藤裕美 |
| 14 | 通年 | 柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑬ | 柔道整復師として必要である腫瘍(良性と悪性の違い)について理解し述べるができる。 | 加藤裕美 |
| 15 | 通年 | 柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑭ | 柔道整復師として必要である腫瘍(胃癌、大腸癌、肺癌)について理解し述べるができる。 | 加藤裕美 |
| 16 | 通年 | 柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑮ | 柔道整復師として必要である筋疾患について理解し述べるができる。 | 加藤裕美 |
| 17 | 通年 | 期末テスト まとめ | 試験を行い、解説をし、知識を修得する。 | 加藤裕美 |
| 成績評価方法 | | 試験による成績により評価する | | |
| 準備学習など | | 予習・復習を行っておくように。 | | |

| | |
|----------|--|
| 学科・年次 | 柔道整復科・2学年 |
| 科目名 | 一般臨床医学 |
| 担当者 | 益田健史 |
| 単位数（時間数） | 4単位（68時間） |
| 学習方法 | 講義 |
| 教科書・参考書 | 一般臨床医学（医歯薬出版）、国家試験過去問題集 柔道整復師用（医道の日本社） |

| |
|--|
| 授業概要と目的 |
| <p>一般臨床医学は、一般内科を中心として、臨床検査医学や薬理学および内科診断学なども含まれる。そのため、解剖学や生理学や病理学が基礎となり、それらの知識を深めておくことが望ましい。本講義では、主要な疾患の概念や症状を中心として検査法や治療法について学ぶ。内容は多岐にわたるので、教科書の範囲にとらわれず、医師として臨床経験のある者が、その経験をいかし授業を行う。</p> |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|---------------------|--|------|
| 1 | 通年 | オリエンテーション | 柔道整復師になるにあたり、内科学科目の重要性を理解し、積極的に理解できるよう努めることができる。 | 益田健史 |
| 2 | 通年 | 問診や視診を理解する① | 問診や視診のやり方を理解し、それらを実施することができる。 | 益田健史 |
| 3 | 通年 | 問診や視診を理解する② | 主に、運動機能に関する指針のやり方を理解し、それらを実施することができる。 | 益田健史 |
| 4 | 通年 | 頭頸部診察や打診および聴診を理解する。 | 頭頸部診察や打診および聴診のやり方を理解し、その際の注意点に配慮しながら、実施することができる。 | 益田健史 |
| 5 | 通年 | 胸腹部診察や触診を理解する。 | 打診や聴診や触診を行うことにより、胸腹部診察のやり方を理解し、それらを実施することができる。 | 益田健史 |

| | | | | |
|----|----|----------------------------|---|------|
| 6 | 通年 | 四肢診察や神経学的検査を理解する。 | 四肢診察のやり方や神経学的検査を理解し、それらを実施することができる。 | 益田健史 |
| 7 | 通年 | 反射検査および生命徴候を理解する。 | 反射検査のやり方を理解し、生命徴候を把握する上での注意点に配慮しながら、それらを実施することができる。 | 益田健史 |
| 8 | 通年 | 臨床検査を理解する。 | 血液検査や尿検査などのやり方や解釈について理解し、それらの特徴を述べることができる。 | 益田健史 |
| 9 | 通年 | 消化器疾患について知る① | 各分野におけるグループでの討議を通じて、各自の課題を調べ、その課題をプレゼンテーションにより説明できるように準備する。 | 益田健史 |
| 10 | 通年 | 消化器疾患について知る② | 各分野におけるグループでの討議を通じて、各自の課題を調べ、その課題をプレゼンテーションにより説明できるように準備する。 | 益田健史 |
| 11 | 通年 | 食道疾患を理解する。 | 食道癌、マロリ・ワイス症候群、胃食道逆流症などの疾患について理解し、その特徴を述べることができる。 | 益田健史 |
| 12 | 通年 | 胃疾患を理解する。 | 胃癌、消化性潰瘍などの疾患について理解し、その特徴を述べることができる。 | 益田健史 |
| 13 | 通年 | 腸疾患を理解する。 | 大腸癌、炎症性腸疾患、腸閉塞などの疾患について理解し、その特徴を述べることができる。 | 益田健史 |
| 14 | 通年 | 肝臓疾患を理解する。 | 急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、アルコール性肝障害などの状態や疾患などについて理解し、その特徴を述べることができる。 | 益田健史 |
| 15 | 通年 | 胆嚢、膵臓疾患を理解する。 | 胆嚢炎、胆石症、胆嚢癌などの胆嚢疾患や膵炎や膵癌などの膵臓疾患について理解し、その特徴を述べることができる。 | 益田健史 |
| 16 | 通年 | 呼吸器、循環器、代謝、神経、内分泌疾患について知る。 | 各分野におけるグループでの討議を通じて、各自の課題を調べ、その課題をプレゼンテーションにより説明できるように準備する。 | 益田健史 |

| | | | | |
|----|----|--------------------------|---|------|
| 17 | 通年 | 呼吸器疾患を理解する。 | 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺癌、自然気胸などの疾患について理解し、その特徴を述べることができる。 | 益田健史 |
| 18 | 通年 | 循環器疾患を理解する。 | 虚血性心疾患、うっ血性心不全、高血圧、弁膜症などの疾患について理解し、その特徴を述べることができる。 | 益田健史 |
| 19 | 通年 | 代謝疾患を理解する。 | 糖尿病、脂質異常症、メタボリックシンドローム・痛風などの疾患について理解し、その特徴を述べることができる。 | 益田健史 |
| 20 | 通年 | 神経疾患を理解する。 | 認知症などの症状および、脳血管障害、パーキンソン病、ギラン・バレー症候群、筋萎縮性側索硬化症、重症筋無力症などの各種神経疾患について理解し、その特徴を述べることができる。 | 益田健史 |
| 21 | 通年 | 内分泌疾患を理解する。 | 下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎などの各種内分泌疾患について理解し、その特徴を述べることができる。 | 益田健史 |
| 22 | 通年 | 腎臓、泌尿器、血液、膠原病、感染症について知る。 | 各分野におけるグループでの討議を通じて、各自の課題を調べ、その課題をプレゼンテーションにより説明できるように準備する。 | 益田健史 |
| 23 | 通年 | 腎臓疾患および泌尿器疾患を理解する。 | 腎不全、ネフローゼ症候群、各種泌尿器疾患などについて理解し、その特徴を述べることができる。 | 益田健史 |
| 24 | 通年 | 血液疾患を理解する。 | 貧血、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、各種出血性疾患などについて理解し、その特徴を述べることができる。 | 益田健史 |
| 25 | 通年 | 膠原病疾患を理解する。 | 慢性関節リウマチ、SLE、強皮症、皮膚筋炎などの膠原病疾患や、ベーチェット病などの膠原病類縁疾患について理解し、その特徴を述べることができる。 | 益田健史 |
| 26 | 通年 | 内分泌疾患を理解する。 | 生理学や病理学の内容も踏まえ、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎などの各種内分泌疾患について理解し、その特徴を述べるだけでなく、症状別に分類したり対比したりすることができる。 | 益田健史 |

| | | | | |
|--------|----|---|---|-------|
| 27 | 通年 | 感染症疾患を理解する。 | 麻疹や風疹などの各種ウイルス性疾患や、破傷風などの各種細菌性疾患などについて理解し、その特徴を述べることができる。 | 益田 健史 |
| 28 | 通年 | 問診や視診について、臨床に役立つ知識を修得する。 | 現在までの講義内容を理解した上で、より臨床的に応用するとともに、その問題点について討議することができる。 | 益田 健史 |
| 29 | 通年 | 打診、聴診、触診、生命徴候について、臨床的に役立つ知識を修得する。 | 現在までの講義内容を理解した上で、より臨床的に応用するとともに、その問題点について討議することができる。 | 益田 健史 |
| 30 | 通年 | 反射検査、消化器疾患について、臨床的に役立つ知識を修得する。 | 現在までの講義内容を理解した上で、より臨床的に応用するとともに、その問題点について討議することができる。 | 益田 健史 |
| 31 | 通年 | 呼吸器、循環器、血液、内分泌、代謝などの疾患について、臨床的に役立つ知識を修得する。 | 現在までの講義内容を理解した上で、より臨床的に応用するとともに、その問題点について討議することができる。 | 益田 健史 |
| 32 | 通年 | 膠原病、腎臓、泌尿器、神経などの疾患について、臨床的に役立つ知識を修得する。 | 現在までの講義内容を理解した上で、より臨床的に応用するとともに、その問題点について討議することができる。 | 益田 健史 |
| 33 | 通年 | 内科疾患全般について、臨床的に役立つ知識を修得する。 | 現在までの講義内容を理解した上で、より臨床的に応用するとともに、その問題点について討議することができる。 | 益田 健史 |
| 34 | 通年 | 科目修了試験、まとめ | | 益田 健史 |
| 成績評価方法 | | 科目修了試験。さらに、グループワークを通じた日常的な取り組みおよびプレゼンテーションにより、総合的に評価する。 | | |
| 準備学習など | | 柔道整復師国家試験の問題について、適宜、解法や解説などを加えながら進めるので、講義内容に遅れないよう心がけていくこと。 | | |

| | |
|----------|---|
| 学科・年次 | 柔道整復学科・2 学年 |
| 科目名 | 整形外科学 |
| 担当者 | 深澤進次 |
| 単位数（時間数） | 4 単位(68 時間) |
| 学習方法 | 講義(座学) |
| 教科書・参考書 | 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修教科書(整形外科学)、医療情報科学研究所編集(発：岡庭豊病気が見える vol.11 運動器・整形外科 第1版 株式会社メディックメディア) |

| |
|--|
| 授業概要と目的 |
| 柔道整復師として必要な整形外科学の知識・疾患に対する特徴を教授し学ぶ、そのうえで、柔道整復師としての業務範囲（骨折、脱臼、打撲、捻挫）である運動器疾患について、他疾患との鑑別、整形外科的検査法、身体評価などについて学んでいく。医師として臨床経験のある者が、その経験をいかし授業を行う。 |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|--------------------------|---|------|
| 1 | 通 年 | 1.機能解剖① | 語句について理解し説明できる。 | 深澤進次 |
| 2 | 通 年 | 2.機能解剖② | ・ 器具について学び、その特徴を説明できる。 | 深澤進次 |
| 3 | 通 年 | 3.治療（外固定シーネ、ギプス、ギプスシャーレ） | ・ 整形外科で行う治療について学び、内容を説明できる。 | 深澤進次 |
| 4 | 通 年 | 4.検査 | ・ 徒手的に行う検査、X線やMRI、CTといった画像診断についての基礎知識を学び、説明できる。 | 深澤進次 |
| 5 | 通 年 | 5.外傷 | ・ 骨折や捻挫、靭帯損傷についての基礎知識を学び、説明できる。 | 深澤進次 |
| 6 | 通 年 | 6. 感染症 | ・ 軟部組織・骨・関節・脊椎の感染の原因や治療方法について学び、内容を説明できる。 | 深澤進次 |
| 7 | 通 年 | 7.1～6回でやったところの確認 | ・ 1～6回の学習を振り返りポイントを復習する | 深澤進次 |

| | | | | |
|----|-----|----------------------------|---|------|
| 8 | 通 年 | 8.①先天性疾患 ②発育期の疾患 | <ul style="list-style-type: none"> 先天性股関節脱臼、奇形、特発性側弯症、大腿骨頭沁り症について学び、説明できる。 | 深澤進次 |
| 9 | 通 年 | 9.①前回までの復習 ②代謝性疾患 | <ul style="list-style-type: none"> 前回までの学習を復習しポイントを振り返る。 代謝性疾患について学び、説明できる。 | 深澤進次 |
| 10 | 通 年 | 10. 腫瘍性疾患 | <ul style="list-style-type: none"> 良性・悪性の腫瘍性疾患について内容を学び、説明できる。 | 深澤進次 |
| 11 | 通 年 | 11. 変性疾患（関節） | <ul style="list-style-type: none"> 関節の変性疾患について内容を学び、説明できる。 | 深澤進次 |
| 12 | 通 年 | 12.変性疾患 | <ul style="list-style-type: none"> 脊椎の変性疾患について学び、説明できる。 | 深澤進次 |
| 13 | 通 年 | 13.スポーツ傷害と障害 | <ul style="list-style-type: none"> スポーツ傷害と障害の違いについて学び、説明できる。 | 深澤進次 |
| 14 | 通 年 | 14. スポーツ外傷 | <ul style="list-style-type: none"> 上下肢のスポーツ外傷とその治療方法について学び、説明できる。 | 深澤進次 |
| 15 | 通年 | 15. スポーツ障害 | <ul style="list-style-type: none"> スポーツ障害の病態と治療方法について内容を把握し、説明できる。 | 深澤進次 |
| 16 | 通 年 | 16.復習小テスト① | <ul style="list-style-type: none"> 復習小テストを実施し期末テストに向けてポイントを理解する。 | 深澤進次 |
| 17 | 通 年 | 17.解説 | <ul style="list-style-type: none"> 復習小テストの内容の解説を実施 テストに向けて理解を深める。 | 深澤進次 |
| 18 | 通 年 | 18.関節リウマチ | <ul style="list-style-type: none"> 関節リウマチについて学び、説明できる。 | 深澤進次 |
| 19 | 通 年 | 19. リウマチ性疾患 | <ul style="list-style-type: none"> リウマチ性疾患について学び、説明できる。 | 深澤進次 |
| 20 | 通 年 | 20. 復習小テスト② | <ul style="list-style-type: none"> 復習小テストを実施し期末テストに向けてポイントを理解する。 | 深澤進次 |
| 21 | 通 年 | 21. 解説 | <ul style="list-style-type: none"> 復習小テストの内容の解説を実施 テストに向けて理解を深める。 | 深澤進次 |
| 22 | 通 年 | 22.小テスト (第 31 回国試問題午前分) | <ul style="list-style-type: none"> 第 31 回国家試験の問題を演習し、国家試験の傾向を理解する | 深澤進次 |
| 23 | 通 年 | 23.回答と検討 | <ul style="list-style-type: none"> 演習を実施した第 31 回国家試験の問題について解説を実施し理解を深める。 | 深澤進次 |
| 24 | 通 年 | 24. 小テスト (第 30 回国試) | <ul style="list-style-type: none"> 第 30 回国家試験の整形外科分野の問題を中心に演習し傾向を理解する | 深澤進次 |

| | | | | |
|----|-----|------------------------------------|--|------|
| 25 | 通 年 | 25. 回答と検討 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 演習を実施した第 30 回国家試験の問題について解説を実施し理解を深める。 | 深澤進次 |
| 26 | 通 年 | 26.四肢循環障害について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 深部静脈血栓症やレイノー病について説明できる。 ・ 上肢の神経障害を中心に正中・橈骨・尺骨神経障害の特徴について学び、説明できる。 | 深澤進次 |
| 27 | 通 年 | 27.全身性神経・筋疾患について理解する。 ① | <ul style="list-style-type: none"> ・ 脳性麻痺や脊髄性小児麻痺について内容を把握し、説明できる。 | 深澤進次 |
| 28 | 通 年 | 28.全身性神経・筋疾患について理解する。 ② | <ul style="list-style-type: none"> ・ 脊髄空洞症や脊髄瘍について内容を把握し、説明できる。 | 深澤進次 |
| 29 | 通 年 | 29.全身性神経・筋疾患について理解する。 ③ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 筋萎縮性側索硬化症や神経性進行性筋萎縮症について内容を把握し、説明できる。 | 深澤進次 |
| 30 | 通 年 | 30.全身性神経・筋疾患について理解する。 ④ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 若年性一側性上肢筋萎縮症や進行性筋ジストロフィーについて内容を把握し、説明できる。 | 深澤進次 |
| 31 | 通 年 | 31.身体各部位各論にて頸部の疾患を理解する。 ① | <ul style="list-style-type: none"> ・ 国家試験にて出題される傾向にある後縦靭帯骨化症や斜頸を中心に頸部の各疾患の特徴を学び、説明できる。 | 深澤進次 |
| 32 | 通 年 | 32.身体各部位各論にて頸部の疾患を理解する。 ② | <ul style="list-style-type: none"> ・ 国家試験にて出題される傾向にある後縦靭帯骨化症や斜頸を中心に頸部の各疾患の特徴を学び、説明できる。 | 深澤進次 |
| 33 | 通 年 | 33.期末試験 および整形外科総括。 ① | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本試験を行う。 ・ 整形外科総括。 | 深澤進次 |
| 34 | 通 年 | 34.期末試験のフィードバック および整形外科総括。 ② | <ul style="list-style-type: none"> ・ 解説をして国家試験において何が足りないのか考察する。 ・ 整形外科総括。 | 深澤進次 |

| | |
|--------|---|
| 成績評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・出席・本試験においての点数で評価を行う。 ・アクティブラーニング：グループワークを通じた日常的な取り組みおよびプレゼンテーションにより、総合的に評価する。 |
| 準備学習など | <ul style="list-style-type: none"> ・整形外科領域における内容は解剖学・柔道整復学と同等の内容もあるため、各分野の予習・復習はもちろん、教科書もいつでも使用できるように準備しておくこと。 |

| | |
|----------|-------------------------------------|
| 学科・年次 | 柔道整復科・2学年 |
| 科目名 | 外科学概論 |
| 担当者 | 江口武史 |
| 単位数（時間数） | 4単位(68時間) |
| 学習方法 | 講義 |
| 教科書・参考書 | 外科学概論(南江堂)、国家試験過去問題集 柔道整復師用(医道の日本社) |

| |
|--|
| 授業概要と目的 |
| <p>外科学の概要を学び、解剖学・生理学・病理学・一般臨床医学の一部を融合しつつ、理解を深めます。・講義方法はグループ単位でテーマを与え、各人にプレゼンテーションを行って頂きます。日常態度及びプレゼンテーションの内容、さらには口頭試問などを評定に加え、それらを通して、前述の教科とのより深い内容の理解を目指し、医師として臨床経験のある者が、その経験をいかし授業を行う。</p> |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|----------------------------------|---|------|
| 1 | 通 年 | オリエンテーション | 柔道整復師になるにあたり、外科学科目の重要性を理解し、積極的に理解できるよう努めることができる。 | 江口武史 |
| 2 | 通 年 | 損傷、熱傷、外科感染症、腫瘍、ショック、輸血、輸液について知る① | 各分野におけるグループでの討議を通じて、各自の課題を調べ、その課題をプレゼンテーションにより説明できるように準備する。 | 江口武史 |

| | | | | |
|----|----|----------------------------------|---|------|
| 3 | 通年 | 損傷、熱傷、外科感染症、腫瘍、ショック、輸血、輸液について知る② | 各分野におけるグループでの討議を通じて、各自の課題を調べ、その課題をプレゼンテーションにより説明できるように準備する。 | 江口武史 |
| 4 | 通年 | 損傷について理解する | 機械的損傷や非機械的損傷、創傷治癒過程などの状態について理解し、その特徴を述べることができる。 | 江口武史 |
| 5 | 通年 | 損傷について理解する | 熱傷の重症度などについて理解し、それに応じた対応法や治療の特徴を述べるができる。 | 江口武史 |
| 6 | 通年 | 炎症、外科感染症について理解する。 | 丹毒や蜂窩織炎などの外科感染症について理解し、その特徴を述べるができる。 | 江口武史 |
| 7 | 通年 | 腫瘍について理解する。 | 良性腫瘍と悪性腫瘍や、腫瘍の肉眼的分類および TNM 分類などについて理解し、その特徴を述べるができる。 | 江口武史 |
| 8 | 通年 | ショックについて理解する。 | ショックを四分類に分け、それらショックの特徴や対応法について理解し、その特徴を述べるができる。 | 江口武史 |
| 9 | 通年 | 輸血、輸液について理解する。 | 血液を踏まえた輸血、体液を踏まえた輸液を理解し、臨床的な対応方法やその特徴を述べるができる。 | 江口武史 |
| 10 | 通年 | 滅菌、消毒法、手術、麻酔、移植、止血、心肺蘇生術について知る① | 各分野におけるグループでの討議を通じて、各自の課題を調べ、その課題をプレゼンテーションにより説明できるように準備する。 | 江口武史 |
| 11 | 通年 | 滅菌、消毒法、手術、麻酔、移植、止血、心肺蘇生術について知る② | 各分野におけるグループでの討議を通じて、各自の課題を調べ、その課題をプレゼンテーションにより説明できるように準備する。 | 江口武史 |
| 12 | 通年 | 滅菌、消毒法、手術、麻酔、移植、止血、心肺蘇生術について知る③ | 各分野におけるグループでの討議を通じて、各自の課題を調べ、その課題をプレゼンテーションにより説明できるように準備する。 | 江口武史 |

| | | | | |
|----|-----|-------------------------------------|--|------|
| 13 | 通 年 | 滅菌、消毒法について理解する。 | 手指などの滅菌法や手術や処置の際の消毒法などについて理解し、その特徴を述べることができる。 | 江口武史 |
| 14 | 通 年 | 手術について理解する。 | 手術器具や糸結びなどの手術時の対応について理解し、その特徴を述べるができる。 | 江口武史 |
| 15 | 通 年 | 麻酔について理解する。 | 麻酔前投薬や麻酔薬の種類などについて理解し、全身麻酔や局所麻酔の違いに留意しながら、その特徴を述べるができる。 | 江口武史 |
| 16 | 通 年 | 移植について理解する。 | 移植の方法などについて理解し、臓器移植などの様々な問題点やその特徴を述べることができる。 | 江口武史 |
| 17 | 通 年 | 出血、止血について理解する。 | 内出血、外出血などの症状について理解し、その止血法を述べることができる。 | 江口武史 |
| 18 | 通 年 | 心肺蘇生法について理解する。 | 心肺蘇生法について理解し、どのような場合に蘇生術を行うかなどを具体的に述べるができる。そして、心肺蘇生術を様々なことに留意しながら実践することができる。 | 江口武史 |
| 19 | 通 年 | 頭部外傷、顔面外傷、胸部外傷、腹部外傷、乳腺疾患について知る ① | 各分野におけるグループでの討議を通じて、各自の課題を調べ、その課題をプレゼンテーションにより説明できるように準備する。 | 江口武史 |
| 20 | 通 年 | 頭部外傷、顔面外傷、胸部外傷、腹部外傷、乳腺疾患について知る ② | 各分野におけるグループでの討議を通じて、各自の課題を調べ、その課題をプレゼンテーションにより説明できるように準備する。 | 江口武史 |
| 21 | 通 年 | 頭部外傷、顔面外傷、胸部外傷、腹部外傷、乳腺疾患について知る ③ | 各分野におけるグループでの討議を通じて、各自の課題を調べ、その課題をプレゼンテーションにより説明できるように準備する。 | 江口武史 |

| | | | | |
|----|----|-----------------------------------|--|------|
| 22 | 通年 | 頭部、顔面外傷について理解する ① | てんかん、眼窩底骨折、脳挫傷などの疾患について理解し、その特徴を述べることができる。 | 江口武史 |
| 23 | 通年 | 頭部、顔面外傷について理解する ② | 急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫、慢性硬膜下血腫、クモ膜下出血などの疾患について理解し、その特徴を述べることができる。 | 江口武史 |
| 24 | 通年 | 頭部、顔面外傷について理解する ③ | 脳腫瘍、脳梗塞、脳出血などの疾患について理解し、その特徴を述べることができる。 | 江口武史 |
| 25 | 通年 | 胸部外傷について理解する。 | 肋骨骨折や肺挫傷および緊張性気胸などの疾患について理解し、その特徴を述べることができる。 | 江口武史 |
| 26 | 通年 | 腹部外傷について理解する。 | 肝出血、脾出血、腎出血などの状態を理解し、その特徴を述べることができる。 | 江口武史 |
| 27 | 通年 | 乳腺疾患について理解する。 | 乳腺炎や乳癌などの疾患について理解し、その特徴を述べることができる。 | 江口武史 |
| 28 | 通年 | 損傷や腫瘍について、臨床に役立つ知識を修得する。 | 現在までの講義内容を理解した上で、より臨床的に応用するとともに、その問題点について討議することができる。 | 江口武史 |
| 29 | 通年 | ショックや滅菌について、臨床に役立つ知識を修得する。 | 現在までの講義内容を理解した上で、より臨床的に応用するとともに、その問題点について討議することができる。 | 江口武史 |
| 30 | 通年 | 手術や止血について、臨床に役立つ知識を修得する。 | 現在までの講義内容を理解した上で、より臨床的に応用するとともに、その問題点について討議することができる。 | 江口武史 |
| 31 | 通年 | 蘇生、痙攣、脳卒中、腹部外傷について、臨床に役立つ知識を修得する。 | 現在までの講義内容を理解した上で、より臨床的に応用するとともに、その問題点について討議することができる。 | 江口武史 |
| 32 | 通年 | 外科疾患全般について臨床に役立つ知識を修得する。 | 現在までの講義内容を理解した上で、より臨床的に応用するとともに、その問題点について討議することができる。 | 江口武史 |

| | | | | |
|--------|-----|---|---|------|
| 33 | 通 年 | 内科疾患と外科疾患を融合して臨床に役立つ知識を修得する。 | 外科学概論及び一般臨床医学を理解した上で、より臨床的に応用するとともに、その問題点について討議することができる。また実際の症例について診断を推定し、鑑別すべき疾患と比較することができる。 | 江口武史 |
| 34 | 通 年 | 科目修了試験 まとめ | | |
| 成績評価方法 | | 科目修了試験。さらにグループワークを通じた日常的な取り組みおよびプレゼンテーションにより、総合的に評価する。 | | |
| 準備学習など | | 柔道整復師国家試験の問題について、適宜、解法や解説などを加えながら進めるので、講義内容に遅れないよう心がけていくこと。 | | |

| | |
|----------|--|
| 学科・年次 | 柔道整復科・2学年 |
| 科目名 | リハビリテーション医学 |
| 担当者 | 鵜飼建志 |
| 単位数（時間数） | 4単位（68時間） |
| 学習方法 | 講義、ディスカッション |
| 教科書・参考書 | 公益法人全国柔道整復学校協会監修指定教科書 リハビリテーション医学改定第4版 南江堂 |

| |
|---|
| 授業概要と目的 |
| <p>超高齢社会に入って久しい日本において、高齢者に多い疾患による障害をもたらす不利益には何があるのか、障害の種類や病態、診断テスト、改善のための後療法などを学び、柔道整復師としてどのように貢献できるかを知る。また高齢者以外にも多く発生する、スポーツ障害や骨折、捻挫などの運動器系障害についても同様に、病態等を理解し治療できるよう学ぶ。リハビリテーション医学におけるチームアプローチを学ぶ。国家試験で問われる広い知識はもちろんのこと、暗記に偏らないよう解剖学・生理学・運動学的な基礎医学の背景を理解しながら進めていく。理学療法士として病院等で臨床経験のある者が、その経験を活かし授業を行う。</p> |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|---|---|------|
| 1 | 通 年 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義の概要を理解する。 ・リハビリテーションという用語は一般に正しく理解されていないため、物理療法や運動療法、理学療法などの用語との違いを理解する | <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの意味を説明できる 2. 医療におけるリハビリテーションの理念を説明できる | 鵜飼建志 |
| 2 | 通 年 | <ul style="list-style-type: none"> ・障害者の抱える問題を理解する。 ・ADL と QOL の違いを認識する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害者の抱える問題、ノーマライゼーションについて説明できる。 2. IL、ADL、QOL などの用語を用い、障害者のリハビリテーションについて説明できる。 | 鵜飼建志 |
| 3 | 通 年 | <ul style="list-style-type: none"> ・医学的リハビリテーションの対象は何かを理解する。 ・リハビリテーション医学の対象を理解する。 ・障害児者の内訳を知る | <ol style="list-style-type: none"> 1. 医学的リハビリテーションの対象が何かを各障害に分けて説明できる。 2. 肢体不自由、内部障害を具体的に分類できる。 3. 障害児者の内訳を確認し類別できる。 | 鵜飼建志 |
| 4 | 通 年 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICIDH における障害の階層を知り、各障害の区別の仕方を理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 機能・形態障害、能力低下、社会的不利はどのように分けられるのか、具体例をもって正しく説明ができる。 2. 機能・形態障害、能力低下、社会的不利がどのように影響し合うのか具体的に説明できる。 | 鵜飼建志 |
| 5 | 通 年 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICIDF と ICF との違いが分類できる。 ・ICF の構成要素の定義、分類項目、評価点を理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ICF の特徴を ICIDH との違いから、説明できる。 2. ICF にある 5 つの構成要素についてそれぞれを説明できる。 3. ICF を用いた分類をアルファベットと数字を用いたコードで分類できる。 | 鵜飼建志 |

| | | | | |
|----|-----|---|--|------|
| 6 | 通 年 | <ul style="list-style-type: none"> ・四肢長の計測の仕方を知る。 ・周径の計測方法、ポイントを知る。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 上肢長の計測に必要なランドマークを触診できる。 2. 下肢長には SMD と TMD があり、それぞれの計測に必要なランドマークを触診できる。 3. SMD と TMD に差があった場合の解釈を説明できる。 4. 周径の計測部位について上下肢共に述べるができる | 鵜飼建志 |
| 7 | 通 年 | <ul style="list-style-type: none"> ・3つの運動面とそれに応じた軸とその面で起こる運動について理解する。 ・基本肢位を知る ・関節可動域の測定の基本について知る。 ・身体所見には何があるかを知る。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 3つの運動面で起こる運動が何軸を中心に行っているのか、どんな運動があるのかを瞬時に答えることができる。 2. 基本肢位2種類・その違いを説明できる。 3. 関節可動域制限がもたらすものを説明できる。 4. 身体所見には何があるかを具体例をもって説明できる。 | 鵜飼建志 |
| 8 | 通 年 | <ul style="list-style-type: none"> ・小児の運動発達について理解する。 ・これまでの振り返りをし、理解不足の部分がないか確認する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の運動発達について、何がどの時期に可能になるかを説明できる。 2. 分からないところは理解できるところまで読み直し、お互いに説明できるようにする。 | 鵜飼建志 |
| 9 | 通 年 | <ul style="list-style-type: none"> ・ADL とは何かを理解する。 ・ADL とそれに関連する動作を知る。 ・ADL 評価を2つ理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ADL とは何かを具体例をもって説明できる。 2. ADL と APDL の違いを説明できる。 3. バーセル指数と FIM の違い、それぞれの後世を説明できる。 | 鵜飼建志 |
| 10 | 通 年 | <ul style="list-style-type: none"> ・心理的評価を理解する。 ・WAIS を理解する ・心因性疼痛とその検査を理解する ・認知症とその評価方法を知る。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理的評価の対象となるものに何があるのかを説明できる。 2. WAIS の内容について説明できる。 3. 心因性疼痛とはなにかを知り、2つの検査方法を述べるができる。 4. 日本語版ミニメンタルステート検査の内容を実施できる。 | 鵜飼建志 |

| | | | | |
|----|-----|---|--|------|
| 11 | 通 年 | <ul style="list-style-type: none"> ・CT、MRI、SPECT/PET、NIRS といった画像の読影の基本を理解する。 ・失調症のタイプを理解する。 ・運動失調の評価を理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. CT、MRI での脳梗塞・脳出血の映り方、発症直後・発症後長期経過後などでの変化を説明できる。 2. 失調症のタイプとそれぞれの主な疾患を述べることができる。 3. 4タイプの失調症におけるロンベルグ徴候の出方を説明できる。 4. 失調症の評価方法各種と陰性・陽性の判断基準が説明できる。 | 鵜飼建志 |
| 12 | 通 年 | <ul style="list-style-type: none"> ・障害評価の内容を理解する。 ・関節拘縮について理解する。 ・筋萎縮を原因には何があるかを知る | <ol style="list-style-type: none"> 1. 評価と検査測定の違いを説明できる 2. 関節拘縮と関節強直の違い、その臨床的な意義を説明できる。 3. 筋萎縮の3つの原因について説明できる | 鵜飼建志 |
| 13 | 通 年 | <ul style="list-style-type: none"> ・神経麻痺の種類を理解する ・中枢神経麻痺の評価法、特徴的な肢位、特徴的な障害を理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 上位運動ニューロンと下位運動ニューロンの違い、麻痺の種類の違いを説明できる。 2. ブルンストロームステージとは何か説明できる 3. 連合反応、共同運動それぞれの特徴と臨床的な意義について説明できる | 鵜飼建志 |
| 14 | 通 年 | <ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害を理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 失語症の分類と障害部位・その特徴について説明できる。 2. 失認症の分類と障害部位・その特徴について説明できる。 3. 失行症の分類と障害部位・その特徴について説明できる。 | 鵜飼建志 |
| 15 | 通 年 | <ul style="list-style-type: none"> ・メタボリック症候群を理解する。 ・障害受容の流れ、障害者の心理を学ぶ。 ・廃用症候群とそのアプローチを理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. メタボリック症候群の診断項目・基準を述べる事ができる 2. 障害受容過程の初期に起こる心理的防衛機制を説明できる。 3. 廃用症候群の分類とそれに対するアプローチの関係付けができる。 | 鵜飼建志 |

| | | | | |
|----|----|---|--|------|
| 16 | 通年 | <ul style="list-style-type: none"> 筋力強化を理解する 痛みについて理解する | <ol style="list-style-type: none"> 筋線維の種類と特性を説明できる。 力に影響を及ぼす因子を説明できる。 筋収縮のタイプを分類できる。 デローム法を中心とした筋力増強訓練を説明できる。 疼痛の定義、急性痛と慢性痛の違い、慢性疼痛の定義と分類を説明できる。 | 鵜飼建志 |
| 17 | 通年 | <ul style="list-style-type: none"> 全身運動の測定法、運動強度の基準について知る。 糖尿病における運動療法を理解できる 呼吸不全における運動療法を理解できる | <ol style="list-style-type: none"> ramp 負荷法、ブルース法など心肺機能負荷試験などの方法、ボルグ指数を説明できる。 糖尿病に対する運動負荷法を説明できる。 呼吸不全に対する 12 分間歩行距離を説明できる。 | 鵜飼建志 |
| 18 | 通年 | <ul style="list-style-type: none"> リスク管理を理解する。 誤用症候群と過用症候群を理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> リスク管理が必要となる内容を列挙できる。 誤用・過用症候群の種類と病名を列挙できる | 鵜飼建志 |
| 19 | 通年 | <ul style="list-style-type: none"> 理学療法の対象疾患を理解する。 理学療法における病期ごとの対応を知る。 運動療法の内容を理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> 5 つの対象とその内容を説明できる 3 つの病期におけるそれぞれの対応を説明できる。 主な運動療法 6 つとその内容について説明できる。 | 鵜飼建志 |
| 20 | 通年 | <ul style="list-style-type: none"> 物理療法の内容を理解する。 病期ごとの作業療法具体例を理解する。 言語聴覚療法について理解する。 聴覚障害、嚥下障害を理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> 主な物理療法 6 つとその内容について説明できる。 3 つの病期におけるそれぞれの対応を説明できる。 失語症と構音障害の違いを区別できる。 言語の基盤である少機能の障害を 4 つ説明できる。 摂食嚥下機能について全体像を説明でき、過程を 5 段階に分類できる。 | 鵜飼建志 |
| 21 | 通年 | <ul style="list-style-type: none"> 補装具の種類や特徴を知る | <ol style="list-style-type: none"> 杖、歩行器の種類や各部名称、特徴を説明できる。 義肢、装具、車椅子、自助具の種類や各部名称、特徴を説明できる。 | 鵜飼建志 |

| | | | | |
|----|----|---|---|------|
| 22 | 通年 | <ul style="list-style-type: none"> ・フレイル、老年症候群、認知症について理解する ・ロコモティブシンドローム、サルコペニアを理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. フレイルの意味が説明でき、老年症候群の抱える問題点について説明できる。 2. ロコモティブシンドローム、サルコペニアの意味と特徴的な症状や診断基準などを説明できる。 | 鵜飼建志 |
| 23 | 通年 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を取り巻く医療制度を理解する。 ・医療保険の算定制限を理解する。 ・社会福祉と介護保険について理解する。 ・障害者スポーツについて理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 包括支払制度となった背景、それにより起こった変化を理解する。 2. 医療保険制度の変化により自宅に戻る前にどのようなサービスが存在するかを説明できる。 3. 要支援、要介護の基準を説明できる。 4. 障害者スポーツを分類でき、それぞれについて説明できる。 | 鵜飼建志 |
| 24 | 通年 | <ul style="list-style-type: none"> ・パーキンソン病のリハビリテーションについて理解する。 ・脳卒中の分類について理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. パーキンソン病の病態、特徴的な症状が説明できる。 2. パーキンソン病の分類とそれぞれの治療的適応が説明できる。 3. 脳出血、脳梗塞、くも膜下出血の違いを説明できる。 | 鵜飼建志 |
| 25 | 通年 | <ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中により発生する障害を理解する。 ・脳卒中のリハビリテーションを理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳卒中における障害8つをあげ、説明できる。 2. 脳卒中に対するリハビリテーションの内容や流れを急性期、回復期、維持期に分けて説明できる。 | 鵜飼建志 |
| 26 | 通年 | <ul style="list-style-type: none"> ・骨折の治療（整復・固定・手術）を理解する。 ・骨折の後療法を理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 骨折の治癒機転を説明できる。 2. 整復の3つの種類とそれぞれの具体的な分類を説明できる。 3. 部位別の骨折の治癒期間を述べる事ができる。 | 鵜飼建志 |
| 27 | 通年 | <ul style="list-style-type: none"> ・骨粗鬆症による骨折を理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 骨粗鬆症の病態を説明できる。 2. 骨粗鬆症による骨折の好発部位と骨折の種類・分類法などについて説明できる。 3. 骨粗鬆症による骨折後の治療を説明できる。 | 鵜飼建志 |

| | | | | |
|----|----|--|--|------|
| 28 | 通年 | <ul style="list-style-type: none"> ・捻挫を理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 捻挫の定義と分類を説明できる。 2. 救急処置の RICE を説明できる。 3. 捻挫の受傷機転、損傷されやすい靭帯、鑑別すべき骨折を説明できる 4. 治療的アプローチを説明できる。 | 鵜飼建志 |
| 29 | 通年 | <ul style="list-style-type: none"> ・上腕損傷後症候群について理解する | <ol style="list-style-type: none"> 1. 肩関節複合体を構成する関節を6つ述べ、肩甲上腕関節の特徴を説明できる。 2. 肩関節の正常な運動学を説明できる 3. 肩関節障害を引き起こしやすい疾患とそれが原因で起こる障害について説明できる。 | 鵜飼建志 |
| 30 | 通年 | <ul style="list-style-type: none"> ・テニス肘を理解する ・野球肘を理解する ・変形性膝関節症を理解する | <ol style="list-style-type: none"> 1. テニス肘の病態、所見、診断テスト、治療法を説明できる。 2. 野球肘の病態、所見、診断テスト、治療法を説明できる。 3. 変形性膝関節症の病態、所見、診断テスト、治療法を説明できる。 | 鵜飼建志 |
| 31 | 通年 | <ul style="list-style-type: none"> ・フォルクマン拘縮を理解する ・手指の機能異常や変形を知る。 ・屈筋腱断裂の後療法を理解する | <ol style="list-style-type: none"> 1. 手の機能的関節の肢位を細かく説明できる。 2. 手指の機能異常や変形の種類や病態を説明できる。 3. 拘縮が起こりやすい原因を説明できる。 4. 腱縫合術後の3つの早期運動療法を列挙し説明できる。 | 鵜飼建志 |
| 32 | 通年 | <ul style="list-style-type: none"> ・大腿骨頸部骨折や股関節脱臼の後療法を理解する。 ・膝靭帯損傷の後療法を理解する | <ol style="list-style-type: none"> 1. 大腿骨頸部骨折や股関節脱臼の病態、所見、診断テスト、治療法を説明できる。 2. 膝の主要な靭帯4つを列挙でき、それぞれの制動方法運動学的に説明できる。 3. 前十字靭帯損傷後の特徴的な所見と治療法（手術）を説明できる。 | 鵜飼建志 |

| | | | | |
|--------|-----|--|---|------|
| 33 | 通 年 | <ul style="list-style-type: none"> ・頸肩腕症候群の病態とアプローチについて理解する。 ・胸郭出口症候群の病態とアプローチについて理解する。 ・腰痛症の病態とアプローチについて理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 頸肩腕症候群の分類を説明できる。 2. 胸郭出口症候群の病態と原因、診断テストを述べることができる。 3. Barré-Liéou 症候群を説明できる。 4. 腰痛症の分類を説明できる 5. 腰痛症で見逃してはいけない危険信号を述べることができる。 6. 腰痛症の病態と原因、診断テストを述べる | 鵜飼建志 |
| 34 | 通 年 | テスト、リハビリテーション医学の総括 | 1. 試験と解説を行い、リハビリテーション医学の総括説明をする。 | 鵜飼建志 |
| 成績評価方法 | | <p>成績は、$X \times \{ (100-n^2)/100 \}$ にて計算し評価するが、上限は 100 点とする。 X=試験での点数 (110~120 点満点程度で作成) n=講義中の警告指導の回数 (度重なる居眠り、講師開始直後の居眠り、雑談など他学生の勉強の邪魔をするなどの講義進行を妨げる行為) nにおいては、本人にその場で警告指導であることを伝えるものとする。</p> | | |
| 準備学習など | | <p>予習：おおよそテキストの流れに沿っているため、次の講義範囲を読んでおく。 復習：講義直後、その日の就寝前、講義の前夜 (計 3 回)、前回の講義で行った範囲について講義中に大切だと伝えた部分の内容をノートやテキストを見ないで思い出す。忘れた時は少しだけノートやテキストを見て、同様に思い出す。それを繰り返し講義全範囲の復習をやりきる。復習しても理解できなかった部分や聞き漏らしがあった部分に関しては、次の講義の開始時に質問できるよう準備しておく。</p> | | |

| | |
|----------|------------------------------------|
| 学科・年次 | 柔道整復科・2 学年 |
| 科目名 | 柔整 ID |
| 担当者 | 鬼頭宏 |
| 単位数（時間数） | 2 単位（34 時間） |
| 学習方法 | 主に講義による |
| 教科書・参考書 | 柔道整復学理論編、柔道整復学実技編（全国柔道整復学校協会編、南江堂） |

| |
|--|
| 授業概要と目的 |
| 講師が接骨院での経験を踏まえ柔道整復術の適応について指導をする。柔道整復学の体系の内、骨折、脱臼、軟損の総について復習しながら各部位の損傷の柔道整復術が適応できるかの判定について習熟していきたい。この評価は実習前試験として行う。 |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|--|--|-----|
| 1 | 後 期 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ガイダンス ・ 骨折の定義について理解する。 ・ 骨折の全身症状について理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 骨折の定義を説明できる。 2. 骨折の全身症状を 2 つ挙げることが出来る。 3. ショックと吸収熱をそれぞれ説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 2 | 後 期 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 骨折の局所症状について理解する。 ・ 骨折の局所症状の内固有症状について理解する。 ・ 骨折の局所症状の内一般外傷症状について理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 骨折の局所症状を 2 つに分類できる。 2. 骨折の固有症状を分類し説明できる。 3. 骨折の一般外傷症状を分類し説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 3 | 後 期 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 脱臼の定義について理解する。 ・ 脱臼の局所症状の内固有症状について理解する。 ・ 脱臼の局所症状の内一般外傷上場について理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 脱臼の定義を説明できる。 2. 脱臼の固有症状を分類し説明できる。 3. 脱臼の一般外傷症状を分類し説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 4 | 後 期 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 靭帯・関節包の損傷で損傷の程度による分類を理解する。 ・ 筋の損傷で損傷の程度による分類を理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 靭帯・関節包の損傷で損傷の程度により 3 つに分類することができる。 2. 筋の損傷で損傷の程度により 3 つに分類することができる。 | 鬼頭宏 |

| | | | | |
|----|-----|---|--|-----|
| | | ・脛の損傷で、脛損傷の程度による分類を理解する。 | 3. 嫌悪損傷で損傷の程度により 3 つに分類することができる。 | |
| 5 | 後 期 | ・鎖骨骨折における柔道整復術適応での判定について理解する。 | 1. 鎖骨骨折の転位について説明できる。 2. 鎖骨骨折の整復について説明できる。 3. 鎖骨骨折での柔道整復術の適応を判定できる。 | 鬼頭宏 |
| 6 | 後 期 | ・上腕骨外科頸骨折における柔道整復術適応での判定について理解する。 | 1. 外科頸骨折の転位について説明できる。 2. 外科頸骨折の整復について説明できる。 3. 外科頸骨折での柔道整復術の適応を判定できる。 | 鬼頭宏 |
| 7 | 後 期 | ・コーレス骨折における柔道整復術適応での判定について理解する。 ・骨折・脱臼・軟損の総重要な論部分をまとめ理解する。 | 1. コーレス骨折の転位について説明できる。 2. コーレス骨折の整復について説明できる。 3. コーレス骨折での柔道整復術の適応を判定できる。 4. 総論部分についてまとめることができる。 | 鬼頭宏 |
| 8 | 後 期 | ・肩鎖関節上方脱臼における柔道整復術適応での判定について理解する。 | 1. 肩鎖関節上方脱臼の転位について説明できる。 2. 肩鎖関節上方脱臼の整復について説明できる。 3. 肩鎖関節上方脱臼での柔道整復術の適応を判定できる | 鬼頭宏 |
| 9 | 後 期 | ・肩関節前方烏口下脱臼における柔道整復術適応での判定について理解する。 | 1. 肩関節前方烏口下脱臼について説明できる。 2. 肩関節前方烏口下脱臼の整復について説明できる。 3. 肩関節前方烏口下脱臼での柔道整復術の適応を判定できる。 | 鬼頭宏 |
| 10 | 後 期 | ・肘関節後方脱臼における柔道整復術適応での判定について理解する。 | 1. 肘関節後方脱臼の転位について説明できる。 2. 肘関節後方脱臼の整復について説明できる。 3. 肘関節後方脱臼での柔道整復術の適応を判定できる。 | 鬼頭宏 |

| | | | | |
|--------|----|-------------------------------------|---|-----|
| 11 | 後期 | ・肘内障における柔道整復術適応での判定について理解する。 | 1. 肘内障の転位について説明できる。 2. 肘内障の整復について説明できる。 3. 肘内障折での柔道整復術の適応を判定できる。 | 鬼頭宏 |
| 12 | 後期 | ・肩腱板損傷における柔道整復術適応での判定について理解する。 | 1. 腱板損傷の症状について説明できる。 2. 腱板損傷の検査法について説明できる。 3. 腱板損傷での柔道整復術の適応を判定できる。 | 鬼頭宏 |
| 13 | 後期 | ・上腕二頭筋長頭腱損傷における柔道整復術適応での判定について理解する。 | 1. 上腕二頭筋長頭腱損傷の症状について説明できる。 2. 上腕二頭筋長頭腱損傷の検査法について説明できる。 3. 上腕二頭筋長頭腱損傷での柔道整復術の適応を判定できる。 | 鬼頭宏 |
| 14 | 後期 | ・ハムストリングス損傷における柔道整復術適応での判定について理解する。 | 1. ハムストリングス損傷の症状について説明できる。 2. ハムストリングス損傷の検査法について説明できる。 3. ハムストリングス損傷での柔道整復術の適応を判定できる。 | 鬼頭宏 |
| 15 | 後期 | ・大腿四頭筋打撲における柔道整復術適応での判定について理解する。 | 1. 大腿四頭筋打撲の症状について説明できる。 2. 大腿四頭筋打撲の検査法について説明できる。 3. 大腿四頭筋打撲での柔道整復術の適応を判定できる。 | 鬼頭宏 |
| 16 | 後期 | ・膝関節側副靭帯損傷における柔道整復術適応での判定について理解する。 | 1. 膝関節側副靭帯損傷の症状について説明できる。 2. 膝関節側副靭帯損傷の検査法について説明できる。 3. 膝関節側副靭帯損傷での柔道整復術の適応を判定できる。 | 鬼頭宏 |
| 17 | 後期 | ・試験と解説 ・実習前試験としての位置づけで試験を行う。 | 1. 各部の柔道整復術適応での判定について説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 成績評価方法 | | 試験により評価する（100%）。 | | |

| | |
|--------|--|
| 準備学習など | 各項目を学習した後、確認するために当日中に教科書を読んでおくことを勧める。次回に行われる確認問題はその項目のエッセンスであり、習った項目と共に復習しておいてほしい。 |
|--------|--|

| | |
|----------|---------------------------------|
| 学科・年次 | 柔道整復科・2学年 |
| 科目名 | 社会体育Ⅱ（柔道） |
| 担当者 | 近藤英隆 |
| 単位数（時間数） | 2単位（68時間） |
| 学習方法 | 講義および実技 |
| 教科書・参考書 | 「柔道」全国高等学校協会体育連盟柔道部編集 史資料出版協会発行 |

| |
|--|
| 授業概要と目的 |
| <p>【何を学ぶか / Outline and objectives】 柔道の基本的動作を学ぶ 対人的技能における攻撃・防御の技能を体系的に体得する</p> <p>【到達目標 / Goal】 技能の程度に応じた練習や試合ができるようにする。 礼儀作法や相手を尊重し、公正な態度で練習や試合ができるようにする。</p> <p>【授業の進め方 / Method】 柔道の特性を理解させて基本動作である礼法、組み方、崩し、進退動作、受身、投げ技、固め技、技の連絡変化、自由練習を体得し、安全に留意して練習や試合ができるように学習する。さらに、専門的知識及び実技能力以外に、その領域特性を踏まえた体づくり運動も行う。</p> |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標 (GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|--|--|------|
| 1 | 通 年 | ガイダンス 柔道の基本 ・柔道の基本について理解を深める | ガイダンス 礼法 用語 審判のゼスチャー 判定 ・礼法、用語、審判のゼスチャー、判定について説明できる | 近藤英隆 |
| 2 | 通 年 | 約束稽古 ・約束稽古について理解を深める | 乱取りのやり方・技のかけ方 ・乱取りのやり方・技のかけ方について説明ができる | 近藤英隆 |
| 3 | 通 年 | 柔道の基本動作 ・柔道の基本動作について理解を深める | 崩し と つくり と かけ ・崩しとつくりとかけについて説明出来る | 近藤英隆 |
| 4 | 通 年 | 投げ技の基本と受け身の基本 ・投げ技の基本について理解を深める | 投げ と 受け身 ・投げと受け身について実践できる | 近藤英隆 |
| 5 | 通 年 | 打ち込み練習と乱取り ・投げ技の基本について理解を深める | 打ち込み練習と乱取り ・打ち込みが実践出来るようになる | 近藤英隆 |
| 6 | 通 年 | 打ち込み練習と乱取り ・投げ技の基本について理解を深める | 打ち込み練習と乱取り ・打ち込みが実践出来るようになる | 近藤英隆 |
| 7 | 通 年 | 投げから固め技へ移行 ・投げ技から固め技の基本について理解を深める | 投げから固め技へ移行 ・投げ技から実践出来るようになる | 近藤英隆 |
| 8 | 通 年 | 抑え込み技から絞め技へ移行 ・抑え込み技から絞め技への基本について理解を深める | 抑え込み技から絞め技へ移行 ・抑え込み技から絞め技への移行が実践出来るようになる | 近藤英隆 |
| 9 | 通 年 | 関節技 ・関節技の基本について理解を深める | 腕がらみ 脇固め 十字固め 腕固め ・関節技が実践出来るようになる | 近藤英隆 |
| 10 | 通 年 | 固め技 ・固め技の基本について理解を深める | 固め技を含む自由乱取り ・固め技が実践出来るようになる | 近藤英隆 |
| 11 | 通 年 | 固め技 ・固め技の基本について理解を深める | 固め技を含む自由乱取り ・固め技が実践出来るようになる | 近藤英隆 |
| 12 | 通 年 | 投げの形練習 | 手技 浮き落とし | 近藤英隆 |

| | | | | |
|----|-----|------------------------------|-------------------------------|------|
| | | ・投げの方の基本について理解を深める | ・浮き落としが実践出来るようになる | |
| 13 | 通 年 | 投げの形練習 ・投げの方の基本について理解を深める | 手技 浮き落とし ・浮き落としが実践出来るようになる | 近藤英隆 |
| 14 | 通 年 | 投げの形練習 ・投げの方の基本について理解を深める | 手技 背負い投げ ・背負い投げが実践出来るようになる | 近藤英隆 |
| 15 | 通 年 | 投げの形練習 ・投げの方の基本について理解を深める | 手技 背負い投げ ・背負い投げが実践出来るようになる | 近藤英隆 |
| 16 | 通 年 | 投げの形練習 ・投げの方の基本について理解を深める | 手技 肩車 ・肩車が実践出来るようになる | 近藤英隆 |
| 17 | 通 年 | 投げの形練習 ・投げの方の基本について理解を深める | 手技 肩車 ・肩車が実践出来るようになる | 近藤英隆 |
| 18 | 通 年 | 投げの形練習 ・投げの方の基本について理解を深める | 腰技 浮き腰 ・浮き腰が実践出来るようになる | 近藤英隆 |
| 19 | 通 年 | 投げの形練習 ・投げの方の基本について理解を深める | 腰技 浮き腰 ・浮き腰が実践出来るようになる | 近藤英隆 |
| 20 | 通 年 | 投げの形練習 ・投げの方の基本について理解を深める | 腰技 払腰 ・払腰が実践出来るようになる | 近藤英隆 |
| 21 | 通 年 | 投げの形練習 ・投げの方の基本について理解を深める | 腰技 払腰 ・払腰が実践出来るようになる | 近藤英隆 |
| 22 | 通 年 | 投げの形練習 ・投げの方の基本について理解を深める | 腰技 釣り込み腰 ・釣り込み腰が実践出来るようになる | 近藤英隆 |
| 23 | 通 年 | 投げの形練習 ・投げの方の基本について理解を深める | 腰技 釣り込み腰 ・釣り込み腰が実践出来るようになる | 近藤英隆 |
| 24 | 通 年 | 投げの形練習 ・投げの方の基本について理解を深める | 足技 出足払い ・出足払い実践出来るようになる | 近藤英隆 |
| 25 | 通 年 | 投げの形練習 | 足技 出足払い | 近藤英隆 |

| | | | | |
|--------|-----|-------------------------------|--------------------------------------|------|
| | | ・投げのの基本について理解を深める | ・出足払い実践出来るようになる | |
| 26 | 通 年 | 投げの形練習 ・投げのの基本について理解を深める | 足技 送り足払い ・送り足払い実践出来るようになる | 近藤英隆 |
| 27 | 通 年 | 投げの形練習 ・投げのの基本について理解を深める | 足技 送り足払い ・送り足払い実践出来るようになる | 近藤英隆 |
| 28 | 通 年 | 投げの形練習 ・投げのの基本について理解を深める | 足技 内股 ・内股が実践出来るようになる | 近藤英隆 |
| 29 | 通 年 | 投げの形練習 ・投げのの基本について理解を深める | 足技 内股 ・内股が実践出来るようになる | 近藤英隆 |
| 30 | 通 年 | 投げの形練習 ・投げのの基本について理解を深める | 足技 内股 ・内股が実践出来るようになる | 近藤英隆 |
| 31 | 通 年 | 柔道の投げの基本 ・投げのの基本について理解を深める | 間合い 崩しと作りとかけ ・崩しと作りとかけが実践できるようになる | 近藤英隆 |
| 32 | 通 年 | 柔道の投げの基本 ・投げのの基本について理解を深める | 間合い 崩しと作りとかけ ・崩しと作りとかけが実践できるようになる | 近藤英隆 |
| 33 | 通 年 | 柔道の投げの基本 ・投げのの基本について理解を深める | 足の運び方 バランス 投げる方向 ・投げの基本が出来るようになる | 近藤英隆 |
| 34 | 通 年 | 試験と解説 ・試験を持って習熟度を確認 | 試験と解説 柔道の練習や試合が出来るようになる | 近藤英隆 |
| 評価方法 | | 出席点、授業への参加意欲、試験結果を評価とする。 | | |
| 準備学習など | | 事前学修 次回の学修内容について事前学習をしておくこと。 | | |

| | |
|----------|-------------------------------------|
| 学科・年次 | 柔道整復科・2 学年 |
| 科目名 | 臨床柔道整復学 I B |
| 担当者 | 鈴木雅夕 |
| 単位数（時間数） | 4 単位（68 時間） |
| 学習方法 | 主に講義による |
| 教科書・参考書 | 柔道整復学 理論編・実技編（全国柔道整復学校協会編・南江堂）、整形外科 |

| |
|--|
| 授業概要と目的 |
| 柔道整復師としての臨床経験のある教員がその経験を活かし、授業を行う。柔道整復師が扱う外傷疾患には骨折・脱臼・打撲・捻挫等があります。ここでは骨折の中の上肢の骨折について、理論と治療法などを体系的に学んでいきます。 |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|--|---|------|
| 1 | 前期 | 上肢の骨折 「鎖骨骨折 1」 定型的鎖骨骨折 外端部骨折 | ・臨床でも診ることの多い外傷の一つである。 ・国家試験出題頻度も高いことから外傷の特徴について理解する。 | 鈴木雅夕 |
| 2 | 前期 | 「鎖骨骨折 2」 | ・鎖骨の構造、発生年齢による骨折の違い、発生機序、症状を理解する。 ・脱臼との違いを理解し、鑑別診断ができるようにする。 | 鈴木雅夕 |
| 3 | 前期 | 「鎖骨骨折 3」 | ・骨折の整復法、固定法、後療法を理解する。 ・鎖骨骨折は固定法が複数あるので、使用の目的を理解する。 | 鈴木雅夕 |
| 4 | 前期 | 「鎖骨骨折 4」 | ・実際に包帯、固定装具を用いて固定法を行い理解度を深める。 | 鈴木雅夕 |
| 5 | 前期 | 「肩甲骨骨折」 体部骨折 関節窩骨折 頸部骨折 肩峰骨折 烏口突起骨折 | ・骨折部位による症状・発生機序・治療法について理解する。 | 鈴木雅夕 |

| | | | | |
|----|----|--|---|------|
| 6 | 前期 | 上腕骨近位部の骨折 「結節上骨折」 骨頭骨折 解剖頸骨折 「骨端線離開」 | <ul style="list-style-type: none"> ・上腕骨の構造を理解する。 ・骨折部位によつての発生機序、症状、治療法を理解する ・発生年齢を理解し固定法、後療法が選択できるようにする。 | 鈴木雅夕 |
| 7 | 前期 | 上腕骨近位部骨折 「結節下骨折」 外科頸骨折 | <ul style="list-style-type: none"> ・外力の加わり方により転位方向、治療法が異なることを理解し固定法の選択ができるようにする。 ・骨折部位により転位に作用する筋を理解する。 | 鈴木雅夕 |
| 8 | 前期 | 大結節単独骨折 小結節単独骨折 結節部貫通骨折 | <ul style="list-style-type: none"> ・発生機序、転位に関与する筋、後遺症を理解する。 ・合併症、固定位肢位をイメージできるようにする。 | 鈴木雅夕 |
| 9 | 前期 | 「上腕骨骨幹部骨折」 | <ul style="list-style-type: none"> ・骨折部位により転位方向が異なるので、骨に付着する筋を理解し、転位方向をイメージできるようにする。 | 鈴木雅夕 |
| 10 | 前期 | 「上腕骨遠位部骨折」 上腕骨顆上骨折 | <ul style="list-style-type: none"> ・発生年齢、発生機序を理解する。 ・外力加わり方によつて転位方向が異なるので整復法、固定法がイメージできるようにする。 | 鈴木雅夕 |
| 11 | 前期 | 上腕骨外顆骨折 上腕骨内顆骨折 | <ul style="list-style-type: none"> ・発生年齢の違いを理解する。 ・後遺症、整復法、固定法をイメージできるようにする。 | 鈴木雅夕 |
| 12 | 前期 | 上腕骨骨折の整復法 | <ul style="list-style-type: none"> ・上腕骨骨折で学習した整復法を実技で行い骨の転位をイメージし整復操作を理解する。 | 鈴木雅夕 |
| 13 | 前期 | 上腕骨骨折の固定法 | <ul style="list-style-type: none"> ・骨折に合わせた固定法が選択できるようにする。 | 鈴木雅夕 |
| 14 | 前期 | ・まとめ 鎖骨骨折 肩甲骨骨折 上腕骨骨折 | <ul style="list-style-type: none"> ・小テストを用いて各骨折への理解度を図る。 | 鈴木雅夕 |

| | | | | |
|----|-----|---|---|------|
| 15 | 前 期 | 「前腕近位部の骨折」 橈骨近位端部骨折 肘頭骨折 | ・前腕の骨の構造を理解する。 ・発生年齢による損傷部位の違いを理解する。 ・筋の作用による転位をイメージできるようにする。 | 鈴木雅夕 |
| 16 | 前 期 | 「橈骨骨幹部骨折」 「尺骨骨幹部骨折」 | ・骨折部位によって作用する筋の違いで転位が異なることを理解する。 | 鈴木雅夕 |
| 17 | 前 期 | 「橈・尺骨骨幹部骨折」 | ・外力の違いによる骨折線を理解する。 ・合併症、整復法、固定肢位が選択できるようにする。 | 鈴木雅夕 |
| 18 | 前 期 | 「モンテギア骨折」 「ガレアジ骨折」 | ・冠名骨折である各骨折はそれぞれの骨折部位、脱臼部位を理解する。 ・整復法、固定法、後遺症が選択できるようにする。 | 鈴木雅夕 |
| 19 | 前 期 | 「前腕骨遠位端部骨折」 コーレス骨折 スミス骨折 バートン骨折 ショーファー骨折 橈骨遠位骨端線離開 | ・各骨折の発生機序を理解する。 ・ | 鈴木雅夕 |
| 20 | 前 期 | 前腕遠位部骨折 「コーレス骨折 1」 | ・前腕遠位部の構造を理解する。 ・コーレス骨折の発生機序、定型的転位を理解する。 | 鈴木雅夕 |
| 21 | 前 期 | 「コーレス骨折 2」 | ・整復法、固定法を理解する。 ・合併症、後遺症を理解する。 | 鈴木雅夕 |
| 22 | 前 期 | 3. 「コーレス骨折」 | ・実際の患者を想定し患部の診察から整復、固定までをイメージできるようにする。 | 鈴木雅夕 |
| 23 | 前 期 | 「スミス骨折」 | ・発生機序、定型的転位、固定法、後遺症を理解する。 | 鈴木雅夕 |

| | | | | |
|----|----|---------------------------------------|---|------|
| 24 | 前期 | 「掌側・背側 Barton 骨折」 | ・発生機序、定型的転位、固定法を理解する。 | 鈴木雅夕 |
| 25 | 前期 | 「ショーフアー骨折」 「橈骨遠位骨端線離開」 | ・骨折の発生機序、症状、年齢を理解する。 | 鈴木雅夕 |
| 26 | 前期 | 「舟状骨骨折 1」 | ・手根骨の位置関係、発生機序、症状を理解する。 | 鈴木雅夕 |
| 27 | 前期 | 「舟状骨骨折 2」 「その他の手根骨骨折」 | ・固定法、後療法を理解する。 | 鈴木雅夕 |
| 28 | 前期 | 「前腕遠位部骨折 まとめ」 | ・実際の患者を想定し患部の診察から整復、固定法が選択できるようにする。 | 鈴木雅夕 |
| 29 | 前期 | 手・指部の骨折 「中手骨骨折 1」 骨頭部骨折 頸部骨折 | ・中手骨の解剖・機能について理解する ・骨折部位によって整復法、固定法を選択できるようにする。 | 鈴木雅夕 |
| 30 | 前期 | 「中手骨骨折 2」 骨幹部骨折 基部骨折 | ・発生機序、転位方向が理解する。 ・整復法、固定法が選択できるようにする。 ・後遺症について理解する。 | 鈴木雅夕 |
| 31 | 前期 | 「指骨の骨折」 基節骨骨折 中節骨骨折 末節骨骨折 | ・発生機序、転位方向を理解する。 ・整復法、固定法が選択できる。 ・後遺症について理解する。 | 鈴木雅夕 |
| 32 | 前期 | 「手・指部の骨折まとめ 1」 | ・年齢、発生機序、症状から他の疾患と鑑別できるようにする。 | 鈴木雅夕 |

| | | | | |
|--------|----|--|--|------|
| 33 | 前期 | 「手・指部の骨折まとめ 2」 | ・実際の患者を想定し患部の診察から整復、固定までをイメージできるようにする。 | 鈴木雅夕 |
| 34 | 前期 | 試験とまとめ | ・上肢の骨折についての理解度を図る。 | 鈴木雅夕 |
| 成績評価方法 | | 試験（2回）による成績（100点）により評価する。 | | |
| 準備学習など | | 後半は教科書に沿ってサブノートを使用してサブノートをまとめる授業を行う。講義が終わっても国家試験対策の資料として活用できる。 | | |

| | |
|----------|------------------------------------|
| 学科・年次 | 柔道整復科・2学年 |
| 科目名 | 臨床柔道整復学ⅡA |
| 担当者 | 鬼頭宏 |
| 単位数（時間数） | 4単位（68時間） |
| 学習方法 | 主に講義による |
| 教科書・参考書 | 柔道整復学理論編、柔道整復学実技編（全国柔道整復学校協会編、南江堂） |

| |
|---|
| 授業概要と目的 |
| 柔道整復師である講師が、接骨院での経験を踏まえ脱臼各論（主に頭頸部、体幹、上肢）について指導をする。柔道整復学の体系の中で脱臼は骨折に次いで重要な項目であり、脱臼総論の内容も復習しながら各部の脱臼について習熟していきたい。適宜関連部分の骨折、軟損にも触れていく。 |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|-------------------------------|---|-----|
| 1 | 前期 | ・ガイダンス ・脱臼総論の約束事を大まかに理解する。 | 1. 脱臼の定義を説明できる。 2. 脱臼の程度による分類、関節面相互の位置による分類など主要な分類について説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 2 | 前期 | ・脱臼総論の約束事を大まかに理解する。 | 1. 脱臼の症状（固有症状・一般外傷症状）について説明ができる。 2 脱臼の合併症や整復障害など説明できる。 | 鬼頭宏 |

| | | | | |
|----|----|---------------------------------|---|-----|
| 3 | 前期 | ・脱臼総論の約束事を大まかに理解する。 | 1. 脱臼の合併症や整復障害など説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 4 | 前期 | ・頰椎脱臼（上部）について理解する。 | 1 脱臼骨折の場合と単独脱臼の場合における予後について説明できる。 2. 主に医科で行われる治療法について説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 5 | 前期 | ・頰椎脱臼（中下部）、胸椎脱臼について理解する。 | 1. 脱臼の好発部位の説明ができる。 2. X線読影上の注意点が説明できる。 3. 医科での治療の要点が説明できる。 4. 胸椎部の脱臼の好発部位が説明できる。 5. 胸椎部での脱臼に伴う損傷の合併や特殊な骨折について説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 6 | 前期 | ・顎関節脱臼（前方脱臼のあらまし、発生機序）について理解する。 | 1. 顎関節の開口における骨頭の位置について説明できる。 2. 顎関節前方脱臼について発生と各脱臼型を説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 7 | 前期 | ・顎関節脱臼（前方脱臼の症状）について理解する。 | 1. 性差と反復性脱臼について説明できる。 2. 顎関節前方脱臼の症状、所見について説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 8 | 前期 | ・顎関節脱臼（整復法、固定法）について理解する。 | 1. 基本的な整復法を3つ挙げ説明できる。 2. 代表的な固定法について説明できる。 3. 後療法について説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 9 | 前期 | ・顎関節脱臼（後方脱臼、側方脱臼）について理解する。 | 1. 後方脱臼の発生や症状について説明できる。 2. 側方脱臼の発生や症状について説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 10 | 前期 | ・総論、頭頸部の脱臼のまとめを行い理解を高める。 | 1. 各論で用いられる総論部分の説明ができる。 2. 該当分野の過去問レベルの問題を十時説明することが出来る。 | 鬼頭宏 |
| 11 | 前期 | ・鎖骨周りの脱臼、胸鎖関節脱臼（分類、発生）について理解する。 | 1. 鎖骨周りの解剖について説明できる。 2. 二重脱臼の脱臼型について説明できる。 3. 胸鎖関節脱臼の発生について説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 12 | 前期 | ・胸鎖関節脱臼（前方脱臼、症状、整復、固定）について理解する。 | 1. 胸鎖関節前方脱臼の症状について説明できる。 2. 胸鎖関節前方脱臼の整復法と固定法について説明できる。 | 鬼頭宏 |

| | | | | |
|----|----|-------------------------------|--|-----|
| | | | 3. 胸鎖関節後方脱臼の合併損傷について説明できる。 | |
| 13 | 前期 | ・肩鎖関節脱臼（上方脱臼、発生、症状）について理解する。 | 1. 肩鎖関節脱臼の発生について説明できる。 2. 肩鎖関節上方脱臼のトッシーの3分類について説明できる。 3. 肩鎖関節上方脱臼の症状について説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 14 | 前期 | ・肩鎖関節脱臼（上方脱臼、整復、固定）について理解する。 | 1. 肩鎖関節上方脱臼の整復法、固定法について説明できる。 2. 肩鎖関節上方脱臼の後療法について説明できる。 3. 肩鎖関節上方脱臼の後遺症について2つ挙げることが出来る。 | 鬼頭宏 |
| 15 | 前期 | ・肩関節脱臼（前方脱臼、あつまり、発生）について理解する。 | 1. 肩部の解剖特に骨、筋、腱版について説明できる。 2. 肩部の脱臼の多い理由を5つ挙げることが出来る。 3. 肩関節脱臼について分類することが出来る。 4. 肩関節前方脱臼の介達外力による発生について説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 16 | 前期 | ・肩関節脱臼（前方脱臼、症状）について理解する。 | 1. 肩関節前方脱臼について各脱臼の症状を説明できる。 2. 肩関節前方脱臼の合併症に何かがあるか説明できる 3. 骨折と脱臼の鑑別診断について説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 17 | 前期 | ・肩関節脱臼（前方脱臼 整復法、固定法）について理解する。 | 1. 肩関節前方脱臼の一般的な整復法を3つ挙げることが出来る。 2. 肩関節前方脱臼の年齢に応じた固定期間について説明できる。 3. 肩関節前方脱臼の一般的な固定法、バンカート損傷が疑われる際の固定法を説明できる。 4. 後療法で行われる体操などについて説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 18 | 前期 | ・肩関節脱臼（後方脱臼、下方脱 | 1. 肩関節後方脱臼の症状、特に肢位につ | 鬼頭宏 |

| | | | | |
|----|----|--------------------------------|--|-----|
| | | 臼) について理解する。 | いて説明できる。 2. 後方脱臼の整復・固定法について説明できる。 3. 下方脱臼の外転度について説明できる 4. 関節窩下脱臼の整復法について説明できる。 | |
| 19 | 前期 | ・肩関節脱臼（上方脱臼、反復性脱臼）について理解する。 | 1. 肩関節上方脱臼の必発する骨折について説明できる。 2. 反復性脱臼の原因となる損傷について2つ挙げ説明できる。 3. バンカート損傷時の固定肢位について説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 20 | 前期 | ・鎖骨周り、肩関節脱臼のまとめを行い理解を高める。 | 1. 鎖骨周りの脱臼の分類をすることが出来る。 2. 肩関節脱臼の分類をすることが出来る。 3. 鎖骨周り、肩関節周りの脱臼について国家試験過去問レベルの問題を解き説明ができる。 | 鬼頭宏 |
| 21 | 前期 | 肘関節脱臼（後方脱臼、あらし、発生）について理解する。 | 1. 肘関節部の解剖（骨、筋）について説明できる。 2. 肘関節脱臼を分類できる。 3. 肘関節後方脱臼について近位である上腕骨遠位端部の転位と関節包の損傷の関係、なぜ後方脱臼となるかなど説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 22 | 前期 | 肘関節脱臼（後方脱臼、症状）について理解する。 | 1. 肘関節後方脱臼の症状を説明できる。 2. 肘関節後方脱臼の合併症について説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 23 | 前期 | 肘関節脱臼（後方脱臼、整復法、固定法）について理解する。 | 1. 肘関節後方脱臼の整復法について説明できる。 2. 肘関節後方脱臼の固定法について説明できる。 3. 肘関節後方脱臼の後療法について説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 24 | 前期 | 肘関節脱臼（前方脱臼、側方脱臼、単独脱臼）について理解する。 | 1. 肘関節前方脱臼について説明できる。 2. 肘関節側方脱臼について説明できる。 3. 肘関節分散脱臼について説明できる | 鬼頭宏 |
| 25 | 前期 | 肘関節脱臼（肘内障）について理解する。 | 1. 肘内障について発生を説明できる。 2. 肘内障について整復法を説明できる。 3. 肘内障について保護者への対応を説明 | 鬼頭宏 |

| | | | | |
|----|----|-------------------------------|--|-----|
| | | | できる。 | |
| 26 | 前期 | 手関節周りの脱臼（遠位橈尺関節）について理解する。 | 1. 遠位橈尺関節脱臼について説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 27 | 前期 | 手関節周りの脱臼（橈骨手根関節脱臼）について理解する。 | 1. 橈骨手根関節脱臼について説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 28 | 前期 | 手関節周りの脱臼（月状骨掌側脱臼）について理解する。 | 1. 月状骨脱臼の発生について説明できる。 2. サファアの分類を説明できる。 3. 月状骨脱臼の症状について説明できる。 4. 月状骨脱臼の整復固定について説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 29 | 前期 | 手関節周りの脱臼（月状骨周囲脱臼）について理解する。 | 1. 月状骨周囲脱臼の症状について説明できる。 2. 月状骨周囲脱臼の整復固定について説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 30 | 前期 | 手指の脱臼（CM関節脱臼）について理解する。 | 1. 脱臼に合併する骨折を説明できる。 2. CM関節で脱臼の好発する部位を説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 31 | 前期 | 手指の脱臼（MP関節脱臼）について理解する。 | 1. 第1指MP関節の変形と脱臼について説明できる。 2. 第1指MP関節脱臼の整復について説明できる。 3. 第2指MP関節脱臼でのカプランの絞扼について説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 32 | 前期 | 手指の脱臼（PIP関節脱臼）について理解する。 | 1. PIP関節脱臼の分類を説明できる。 2. 分類による固定法の違いについて説明できる。 3. PIP関節脱臼の整復を説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 33 | 前期 | 手指の脱臼（DIP関節脱臼）について理解する。 | 1. DIP関節脱臼の発生と症状を説明できる。 2. DIP関節脱臼の後療法について説明できる。 | 鬼頭宏 |
| 34 | 前期 | 肘関節及び手部回りの脱臼についてまとめを行い理解を高める。 | 1. 肘関節脱臼の分類をすることが出来る。 2. 月状骨脱臼の分類ができる。 3. MP関節やPIP関節の整復について行える。 4. 肘から手部にかけての脱臼について国 | 鬼頭宏 |

| | | |
|--------|---|------------------------|
| | | 家試験過去問レベルの問題を解き説明ができる。 |
| 成績評価方法 | 試験により評価する（100%）。 | |
| 準備学習など | 各項目を学習した後、確認するために日中に教科書を読んでおくことを勧める。次回に行われる確認問題はその項目のエッセンスであり、習った項目と共に復習しておいてほしい。 | |

| | |
|----------|------------------------------------|
| 学科・年次 | 柔道整復科・2学年 |
| 科目名 | 臨床柔道整復学ⅡB |
| 担当者 | 木村友飛 |
| 単位数（時間数） | 2単位（34時間） |
| 学習方法 | 主に講義による |
| 教科書・参考書 | 柔道整復学理論編、柔道整復学実技編（全国柔道整復学校協会編、南江堂） |

| |
|--|
| 授業概要と目的 |
| 柔道整復師である講師が、臨床での経験を踏まえ下肢の骨折各論について指導をする。柔道整復学の骨折総論の知識をもとに、下肢の骨折を項目ごとに分割し習熟する。適宜関連部分の骨折、軟部組織損傷にも触れていく。 |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|--------------------------------|--|------|
| 1 | 前期 | ・ガイダンス ・骨盤骨折（単独骨折）について理解する。 | 1. 骨盤骨折を分類できる。 2. 骨盤骨折の症状や合併症について説明できる。 | 木村友飛 |
| 2 | 前期 | ・骨盤骨折（骨盤輪骨折）について理解する。 | 1. 骨盤輪骨折の症状について説明できる。 2. 骨盤輪骨折の合併症を説明できる。 | 木村友飛 |

| | | | | |
|----|----|-----------------------------|---|------|
| 3 | 前期 | ・大腿骨近位部骨折について理解する。 | 1. 大腿骨近位部骨折を分類できる。 2. 大腿骨骨頭骨折の概説・症状について説明できる。 | 木村友飛 |
| 4 | 前期 | ・大腿骨頸部骨折について理解する。 | 1. 大腿骨頸部骨折の発生・症状について説明できる。 2. 大腿骨頸部骨折を分類できる。 | 木村友飛 |
| 5 | 前期 | ・大腿骨骨幹部骨折について理解する。 | 1. 大腿骨骨幹部骨折の発生機序、転位、症状について説明できる | 木村友飛 |
| 6 | 前期 | ・大腿骨遠位部骨折について理解する。 | 1. 大腿骨遠位部骨折の発生機序、転位、症状について説明できる | 木村友飛 |
| 7 | 前期 | ・膝蓋骨骨折について理解する。 | 1. 膝蓋骨骨折の発生機序、転位、症状について説明できる | 木村友飛 |
| 8 | 前期 | ・下腿骨近位部骨折について理解する。 | 1. 下腿骨近位部骨折の分類、発生機序、転位、症状について説明できる | 木村友飛 |
| 9 | 前期 | ・下腿骨骨幹部骨折について理解する。 | 1. 下腿骨骨幹部骨折の分類、発生機序、転位、症状について説明できる 2. 下腿骨疲労骨折の分類を説明できる | 木村友飛 |
| 10 | 前期 | ・下腿骨遠位部骨折について理解する。 | 1. 下腿骨遠位部骨折の発生機序、転位、症状について説明できる。 | 木村友飛 |
| 11 | 前期 | ・足関節部の骨折とラウゲハンセン分類について理解する。 | 1. ラウゲハンセン分類の仕組みを説明できる。 2. ラウゲハンセン分類の各ステージの進み方を説明できる。 | 木村友飛 |
| 12 | 前期 | ・足関節部の骨折とラウゲハンセン分類について理解する | 1. ラウゲハンセン分類の各ステージの進み方を説明できる。 | 木村友飛 |
| 13 | 前期 | ・足根骨の骨折について理解する。 | 1. 足根骨骨折の分類、発生機序、転位、症状について説明できる | 木村友飛 |
| 14 | 前期 | ・足根骨の骨折について理解する。 | 1. 足根骨骨折の分類、発生機序、転位、症状について説明できる | 木村友飛 |
| 15 | 前期 | ・中足骨骨折について理解する。 | 1. 中足骨骨折の分類、発生機序、転位、症状について説明できる | 木村友飛 |

| | | | | |
|--------|----|--|--------------------------------|------|
| 16 | 前期 | ・足趾の骨折について理解する。 | 1. 足趾骨折の分類、発生機序、転位、症状について説明できる | 木村友飛 |
| 17 | 前期 | ・確認テスト ・授業のまとめ | 1. 国家試験の問題をもとに科目範囲の試験を行う | 木村友飛 |
| 成績評価方法 | | 試験により評価する（100%）。 | | |
| 準備学習など | | 各項目を学習した後、確認するために当日中に教科書を読んでおくことを勧める。次回に行われる確認問題はその項目のエッセンスであり、習った項目と共に復習しておいてほしい。 | | |

| | |
|----------|--|
| 学科・年次 | 柔道整復科・2学年 |
| 科目名 | 臨床柔道整復学ⅢA |
| 担当者 | 加藤稔啓 |
| 単位数（時間数） | 4単位（68時間） |
| 学習方法 | 講義（座学・ビデオ鑑賞・デモンストレーション）、個人ならびにグループ学習 |
| 教科書・参考書 | 公益法人全国柔道整復学校協会監修指定教科書（柔道整復学理論編・実技編、運動学、解剖学、生理学、一般臨床医学） |

| 授業概要と目的 | |
|---|--|
| <p>臨床柔道整復学ⅢAでは、柔道整復理論軟部組織損傷各論上の対象疾患における基礎知識、病態を理解し、臨床における評価（検査法やテスト法等）や治療法を学習する。整形外科外来やリハビリテーション科で実務経験のある柔道整復学専科教員が担当する。</p> <p>学生は、上肢・頭頸部・体幹部の軟部組織損傷について各軟部組織の構造と機能を理解し、それらの軟部組織損傷の症状や程度の分類、治癒機序の基本的事項を学習したうえで、各疾患に対応した柔道整復理論（評価法、整復法、固定法、後療法など）の習得や鑑別疾患について理解・習得する。</p> | |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|--|--|------|
| 1 | 後期 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 軟部組織損傷身について。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義に関する意義と目的を知る。 2. 軟部組織損傷について、概要を理解する。 | 加藤稔啓 |
| 2 | 後期 | <ol style="list-style-type: none"> 3. 頭部、顔面部打撲 4. 顎関節症 5. 外傷性顎関節損傷（顎関節捻挫） | <ol style="list-style-type: none"> A) 対象とする部位の構造と機能を説明できる。 B) 特定の運動と損傷との関係を説明できる。 C) 損傷発生のメカニズムを説明できる。 D) 損傷のテスト法・評価方法を説明できる。 E) 損傷の基本的な治療方針を説明できる。 | 加藤稔啓 |
| 3 | 後期 | <ol style="list-style-type: none"> 6. 外傷性頸部症候群（むちうち損傷） | <ol style="list-style-type: none"> A) 対象とする部位の構造と機能を説明できる。 B) 特定の運動と損傷との関係を説明できる。 C) 損傷発生のメカニズムを説明できる。 D) 損傷のテスト法・評価方法を説明できる。 | 加藤稔啓 |

| | | | | |
|---|----|---|--|------|
| | | | E) 損傷の基本的な治療方針を説明できる。 | |
| 4 | 後期 | 7. 胸郭出口症候群 8. 寝違え | A) 対象とする部位の構造と機能を説明できる。 B) 特定の運動と損傷との関係を説明できる。 C) 損傷発生のメカニズムを説明できる。 D) 損傷のテスト法・評価方法を説明できる。 E) 損傷の基本的な治療方針を説明できる。 | 加藤稔啓 |
| 5 | 後期 | 9. 胸肋関節損傷 10. 肋間筋損傷 11. 胸・背部打撲傷 12. 背部の軟部組織損傷 | A) 対象とする部位の構造と機能を説明できる。 B) 特定の運動と損傷との関係を説明できる。 C) 損傷発生のメカニズムを説明できる。 D) 損傷のテスト法・評価方法を説明できる。 E) 損傷の基本的な治療方針を説明できる。 | 加藤稔啓 |
| 6 | 後期 | 13. 脊椎過敏症 14. 成長期側弯症 15. ティーチェ症候群 | 外傷と疾患の判別、柔整業務範囲内の判別、ほかに鑑別すべき疾患について、理解し説明できる。 | 加藤稔啓 |
| 7 | 後期 | 16. ショイエルマン病 17. キュンメル病 18. 脊椎カリエス 19. 脊椎脊髄腫瘍他 | 外傷と疾患の判別、柔整業務範囲内の判別、ほかに鑑別すべき疾患について、理解し説明できる。 | 加藤稔啓 |
| 8 | 後期 | 20. 腰部の軟部組織損傷：関節性 21. 腰部の軟部組織損傷：靭帯性 22. 腰部の軟部組織損傷：筋・筋膜性 | A) 対象とする部位の構造と機能を説明できる。 B) 特定の運動と損傷との関係を説明できる。 C) 損傷発生のメカニズムを説明できる。 D) 損傷のテスト法・評価方法を説明できる。 E) 損傷の基本的な治療方針を説明できる。 | 加藤稔啓 |

| | | | | |
|----|----|---|---|------|
| 9 | 後期 | 23. 腰椎椎間板ヘルニア | 外傷と疾患の判別、柔整業務範囲内の判別、ほかに鑑別すべき疾患について、理解し説明できる。 | 加藤稔啓 |
| 10 | 後期 | 24. 腰部脊柱管狭窄症 25. 脊椎分離がり症 26. 骨粗鬆症性圧迫骨折 | 外傷と疾患の判別、 について 柔整業務範囲内・疾患・業務外疾患やの判別、ほかに鑑別すべき疾患について、理解し説明できる。 | 加藤稔啓 |
| 11 | 後期 | 27. 腹部大動脈瘤 28. 脊髄腫瘍 29. 原発性骨腫瘍 30. がんの骨転移 | 外傷と疾患の判別、柔整業務範囲内の判別、ほかに鑑別すべき疾患について、理解し説明できる。 | 加藤稔啓 |
| 12 | 後期 | 31. 肩関節部の筋・腱の損傷 32. 肩関節部のスポーツ損傷 33. 頭部、顔面部、頸部、胸背部、腰部、肩部の軟部組織損傷の概要 | A) 対象とする部位の構造と機能を説明できる。 B) 特定の運動と損傷との関係を説明できる。 C) 損傷発生のメカニズムを説明できる。 D) 損傷のテスト法・評価方法を説明できる。 E) 損傷の基本的な治療方針を説明できる。 F) この授業で学んだ内容のポイントを明確にし、整理する。 | 加藤稔啓 |
| 13 | 後期 | 34. 試験 | A) 対象とする部位の構造と機能を説明できる。 B) 特定の運動と損傷との関係を説明できる。 C) 損傷発生のメカニズムを説明できる。 D) 損傷のテスト法・評価方法を説明できる。 E) 損傷の基本的な治療方針を説明できる。 | 加藤稔啓 |
| 14 | 後期 | 35. 試験解答と解説 36. 肩関節不安定症 37. 肩関節部の末梢神経障害 | 26. 試験答案を確認し、知識の整理、確認ができる 外傷と疾患の判別、柔整業務範囲内の判別、ほかに鑑別すべき疾患について、理解し説明できる。 | 加藤稔啓 |

| | | | | |
|----|-----|--|--|------|
| 15 | 後 期 | 38. 五十肩 39. 石灰沈着性腱炎 | 外傷と疾患の判別、柔整業務範囲内の判別、 ほかに鑑別すべき疾患について、理解し説明 できる。 | 加藤稔啓 |
| 16 | 後 期 | 40. 肩関節変形性関節症 41. 変形性肩鎖関節症 42. 頸肩腕症候群 | 外傷と疾患の判別、柔整業務範囲内の判別、 ほかに鑑別すべき疾患について、理解し説明 できる。 | 加藤稔啓 |
| 17 | 後 期 | 43. 関節リウマチ 44. 石灰沈着性腱炎 46. 変形性関節症 | 外傷と疾患の判別、柔整業務範囲内の判別、 ほかに鑑別すべき疾患について、理解し説明 できる。 | 加藤稔啓 |
| 18 | 後 期 | 45. 変形性肩鎖関節症 46. 頸肩腕症候群 47. 関節リウマチ | A) 対象とする部位の構造と機能を説明で きる。 B) 特定の運動と損傷との関係を説明でき る。 C) 損傷発生のメカニズムを説明できる。 D) 損傷のテスト法・評価方法を説明でき る。 損傷の基本的な治療方針を説明できる。 | 加藤稔啓 |
| 19 | 後 期 | 48. 橈骨神経損傷 49. 尺骨神経損傷 | 外傷と疾患の判別、柔整業務範囲内の判別、 ほかに鑑別すべき疾患について、理解し説明 できる。 | 加藤稔啓 |
| 20 | 後 期 | 50. 頰椎症 51. 頰椎椎間板ヘルニア 52. 肺尖部パネコースト症候群 53. 帯状疱疹 | A) 対象とする部位の構造と機能を説明で きる。 B) 特定の運動と損傷との関係を説明でき る。 C) 損傷発生のメカニズムを説明できる。 D) 損傷のテスト法・評価方法を説明でき る。 E) 損傷の基本的な治療方針を説明できる。 | 加藤稔啓 |
| 21 | 後 期 | 54. 肘関節の靭帯損傷 55. 野球肘 | A) 対象とする部位の構造と機能を説明で きる。 B) 特定の運動と損傷との関係を説明でき る。 C) 損傷発生のメカニズムを説明できる。 D) 損傷のテスト法・評価方法を説明でき る。 E) 損傷の基本的な治療方針を説明できる。 | 加藤稔啓 |

| | | | | |
|----|----|--|--|------|
| 22 | 後期 | 56. テニス肘 | A) 対象とする部位の構造と機能を説明できる。 B) 特定の運動と損傷との関係を説明できる。 C) 損傷発生のメカニズムを説明できる。 D) 損傷のテスト法・評価方法を説明できる。 損傷の基本的な治療方針を説明できる。 | 加藤稔啓 |
| 23 | 後期 | 57. パンナー病 58. 変形性肘関節症 | 外傷と疾患の判別、柔整業務範囲内の判別、ほかに鑑別すべき疾患について、理解し説明できる。 | 加藤稔啓 |
| 24 | 後期 | 59. 関節リウマチ 60. 血友病 61. 痛風 62. がん骨転移 | 外傷と疾患の判別、柔整業務範囲内の判別、ほかに鑑別すべき疾患について、理解し説明できる。 | 加藤稔啓 |
| 25 | 後期 | 63. 前腕コンパートメント症候群 64. 腱交叉症候群 | A) 対象とする部位の構造と機能を説明できる。 B) 特定の運動と損傷との関係を説明できる。 C) 損傷発生のメカニズムを説明できる。 D) 損傷のテスト法・評価方法を説明できる。 E) 損傷の基本的な治療方針を説明できる。 | 加藤稔啓 |
| 26 | 後期 | 65. 前腕部の末梢神経障害 三角線維軟骨複合体損傷 | A) 対象とする部位の構造と機能を説明できる。 B) 特定の運動と損傷との関係を説明できる。 C) 損傷発生のメカニズムを説明できる。 D) 損傷のテスト法・評価方法を説明できる。 E) 損傷の基本的な治療方針を説明できる。 | 加藤稔啓 |
| 27 | 後期 | 66. ド・ケルバン病 67. 手関節部の末梢神経障害 | A) 対象とする部位の構造と機能を説明できる。 B) 特定の運動と損傷との関係を説明できる。 C) 損傷発生のメカニズムを説明できる。 D) 損傷のテスト法・評価方法を説明できる。 E) 損傷の基本的な治療方針を説明できる。 | 加藤稔啓 |

| | | | | |
|--------|----|--|---|------|
| 28 | 後期 | 68. キーンバック病 69. マーデリング変形 | A) 対象とする部位の構造と機能を説明できる。 B) 特定の運動と損傷との関係を説明できる。 C) 損傷発生のメカニズムを説明できる。 D) 損傷のテスト法・評価方法を説明できる。 E) 損傷の基本的な治療方針を説明できる。 | 加藤稔啓 |
| 29 | 後期 | 70. ガングリオン 71. 尺骨突き上げ症候群 72. 手根骨不安定症 73. 手根骨特発性壊死 | 外傷と疾患について業務内疾患・業務外疾患や、鑑別疾患について理解し説明できる。 | 加藤稔啓 |
| 30 | 後期 | 71. 腱、靭帯の損傷 72. 肩部、上腕部、肘部、前腕部、手関節部、手指部の軟部組織損傷の概要 | A) 対象とする部位の構造と機能を説明できる。 B) 特定の運動と損傷との関係を説明できる。 C) 損傷発生のメカニズムを説明できる。 D) 損傷のテスト法・評価方法を説明できる。 E) 損傷の基本的な治療方針を説明できる。 F) この授業で学んだ内容のポイントを明確にし、整理する。 | 加藤稔啓 |
| 31 | 後期 | 73. 試験 | 知識を間違いなくアウトプットできる。 | 加藤稔啓 |
| 32 | 後期 | 74. 指部の循環障害 75. ひょう疽 76. グロムス腫瘍 | 外傷と疾患について業務内疾患・業務外疾患や、鑑別疾患について理解し説明できる。 | 加藤稔啓 |
| 33 | 後期 | 76. 試験解答と解説 | 試験答案を確認し、知識の整理、確認ができる | 加藤稔啓 |
| 34 | 後期 | 79. 軟部組織損傷全体を振り返る。 80. 総括、次の学びのために | 全体を通じ、授業項目と到達目標を振り返り、知識の整理と技術確認ができる | 加藤稔啓 |
| 成績評価方法 | | 1. 2026年度スチューデントマニュアルと照らし、試験結果と出席状況を合わせて評価する。 2. 小テストを行ない、項目毎の目標到達を確認する。小テストを実施したときはその得点を、提出物を課したときはその評価も加える。 | | |
| 準備学習など | | 1. 本紙に使用教科書と各回の参照箇所を挙げるので、授業出席前に読んでおくことが望ましい。 2. 実習室の清潔、整理整頓をキープする 3. 出席したとしても実習参加できないことがあれば、事前に相談して欲しい。 | | |

| | |
|----------|--|
| 学科・年次 | 柔道整復科・2学年- |
| 科目名 | 臨床柔道整復学ⅢB |
| 担当者 | 木村友飛 |
| 単位数（時間数） | 2単位（34時間） |
| 学習方法 | 講義（座学・ビデオ鑑賞・デモンストレーション）、個人ならびにグループ学習 |
| 教科書・参考書 | 公益法人全国柔道整復学校協会監修指定教科書（柔道整復学理論編・実技編、運動学、解剖学、生理学、一般臨床医学） |

| |
|---|
| 授業概要と目的 |
| <p>臨床柔道整復学Ⅲでは、柔道整復理論軟部組織損傷各論上の対象疾患における基礎知識、病態を理解し、臨床における評価（検査法やテスト法等）や治療法を学習する。整形外科外来やリハビリテーション科で実務経験のある柔道整復学専科教員が担当する。</p> <p>学生は、下肢の軟部組織損傷について各軟部組織の構造と機能を理解し、それらの軟部組織損傷の症状や程度のカテゴリ、治癒機序の基本的事項を学習したうえで、各疾患に対応した柔道整復理論（評価法、整復法、固定法、後療法など）の習得や鑑別疾患について理解する。</p> |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|---|---|------|
| 1 | 通 年 | 1. ガイダンス 下肢の軟部組織損傷身について概略を知る。 | ① 下肢・頭頸部・体幹部の軟部組織損傷について講義の進め方について説明し講義に関する意義と目的を知る。 | 木村友飛 |
| 2 | 通 年 | 2. 股関節の損傷 D. 股関節の軟部組織損傷 ① 鼠径部痛症候群 ② 股関節唇損傷 ③ 段発股 について学習する。 | ① 対象とする部位の構造と機能を説明できる。 ② 特定の運動と損傷との関係を説明できる。 ③ 損傷発生のメカニズムを説明できる。 ④ 損傷のテスト法・評価方法を説明できる。 損傷の基本的な治療方針を説明できる。 | 木村友飛 |
| 3 | 通 年 | 3. 股関節の損傷 D. 股関節の軟部組織損傷 ④ 梨状筋症候群 ⑤ その他（a.股関節外転拘縮 b.股関節内転拘縮 c.股関節屈曲拘縮） | ⑤ 対象とする部位の構造と機能を説明できる。 ⑥ 特定の運動と損傷との関係を説明できる。 ⑦ 損傷発生のメカニズムを説明できる。 ⑧ 損傷のテスト法・評価方法を説明できる。 ⑨ 損傷の基本的な治療方針を説明できる。 | 木村友飛 |

| | | | | |
|---|----|---|--|------|
| | | について学習する。 | | |
| 4 | 通年 | <p>4. 股関節の損傷</p> <p>E. 股関節の軟部組織損傷</p> <p>① 注意すべき疾患(乳児期にみられる疾患、思春期にみられる疾患、大腿骨頭壊死症、変形性股関節症など)</p> <p>について学習する。</p> | ① 外傷と疾患について業務内疾患・業務外疾患や、鑑別疾患について理解し説明できる。 | 木村友飛 |
| 5 | 通年 | <p>5. 大腿部の損傷</p> <p>C. 股関節の軟部組織損傷</p> <p>① 大腿部打撲</p> <p>② 大腿部の肉ばなれ(a.大腿四頭筋 b.ハムストリングス)</p> <p>について学習する。</p> | <p>① 対象とする部位の構造と機能を説明できる。</p> <p>② 特定の運動と損傷との関係を説明できる。</p> <p>③ 損傷発生のメカニズムを説明できる。</p> <p>④ 損傷のテスト法・評価方法を説明できる。</p> <p>⑤ 損傷の基本的な治療方針を説明できる。</p> | 木村友飛 |
| 6 | 通年 | <p>6. 大腿部の損傷</p> <p>D. 大腿部の軟部組織損傷</p> <p>① 注意すべき疾患(大腿部骨化性筋炎)</p> <p>について学習する。</p> | ① 外傷と疾患について業務内疾患・業務外疾患や、鑑別疾患について理解し説明できる。 | 木村友飛 |
| 7 | 通年 | <p>7. 膝関節の損傷</p> <p>G. 膝関節の軟部組織損傷</p> <p>① 半月(板)損傷</p> <p>② 靭帯損傷(a.側副靭帯損傷 b1.前十字靭帯損傷 b2.後十字靭帯損傷)</p> <p>③ 発育期の膝関節障害(a 小児の膝変形 1.反張膝 2.内反膝、外反膝 3.ブ兰特病 4.大腿四頭筋拘縮症 b.オスグッド・シュラッター病 c.ジャンパー膝 d.有痛性分裂膝蓋骨)</p> | <p>① 対象とする部位の構造と機能を説明できる。</p> <p>② 特定の運動と損傷との関係を説明できる。</p> <p>③ 損傷発生のメカニズムを説明できる。</p> <p>④ 損傷のテスト法・評価方法を説明できる。</p> <p>⑤ 損傷の基本的な治療方針を説明できる。</p> | 木村友飛 |

| | | | | |
|----|----|---|---|------|
| | | について学習する。 | | |
| 8 | 通年 | 8. 膝関節の損傷 G. 膝関節の軟部組織損傷 ④ 腸脛靭帯炎 ⑤ 鵞足炎 ⑥ 膝蓋大腿関節症 (a.膝蓋軟骨軟化症 b.滑膜ヒダ障害 c.膝蓋大腿関節症) ⑦ 膝周囲の関節包、滑液包の異常 ⑧ 神経の障害 (a.総腓骨神経麻痺 b.伏在神経麻痺) について学習する。 | ① 対象とする部位の構造と機能を説明できる。 ② 特定の運動と損傷との関係を説明できる。 ③ 損傷発生のメカニズムを説明できる。 ④ 損傷のテスト法・評価方法を説明できる。 ⑤ 損傷の基本的な治療方針を説明できる。 | 木村友飛 |
| 9 | 通年 | 9. 膝関節の損傷 H. 膝関節の軟部組織損傷 ① 注意すべき疾患 (青少年みられる疾患 a.悪性腫瘍 b.離断性骨軟骨炎 中高年にみられる疾患 a.関節リウマチ b.偽痛風 c.大腿骨顆部骨壊死 d.変形性膝関節症) について学習する。 | ① 外傷と疾患について業務内疾患・業務外疾患や、鑑別疾患について理解し説明できる。 | 木村友飛 |
| 10 | 通年 | 10. 下腿部の損傷 C. 下腿部の軟部組織損傷 ① アキレス腱炎、アキレス腱周囲炎 ② アキレス腱断裂 ③ 下腿三頭筋の肉ばなれ ④ 下腿のスポーツ障害 (a.過労性脛部痛) | ① 対象とする部位の構造と機能を説明できる。 ② 特定の運動と損傷との関係を説明できる。 ③ 損傷発生のメカニズムを説明できる。 ④ 損傷のテスト法・評価方法を説明できる。 ⑤ 損傷の基本的な治療方針を説明できる。 | 木村友飛 |

| | | | | |
|----|----|--|--|------|
| | | について学習する。 | | |
| 11 | 通年 | <p>11. 下腿部の損傷</p> <p>D. 下腿部の軟部組織損傷</p> <p>① 注意すべき疾患 (1 コンパートメント症候群 2 下腿感染症 3 下腿骨腫瘍 4 下肢血管障害)</p> <p>について学習する。</p> | ① 外傷と疾患について業務内疾患・業務外疾患や、鑑別疾患について理解し説明できる。 | 木村友飛 |
| 12 | 通年 | <p>12. 足関節部の損傷</p> <p>E. 足関節部の軟部組織損傷</p> <p>① 足関節捻挫 (a.外側靭帯損傷 b.内側靭帯損傷 c.脛腓靭帯結合部損傷 d.二分靭帯損傷)</p> <p>について学習する。</p> | <p>① 対象とする部位の構造と機能を説明できる。</p> <p>② 特定の運動と損傷との関係を説明できる。</p> <p>③ 損傷発生のメカニズムを説明できる。</p> <p>④ 損傷のテスト法・評価方法を説明できる。</p> <p>⑤ 損傷の基本的な治療方針を説明できる。</p> | 木村友飛 |
| 13 | 通年 | <p>13. 足関節部の損傷</p> <p>E. 足関節部の軟部組織損傷</p> <p>② 足関節捻挫類症鑑別 (a.距骨滑車の骨軟骨損傷 b.足根洞症候群 c.腓骨筋腱脱臼 d.衝突性外骨腫 e.三角骨障害 f.その他 (距骨外側突起骨折、小児期腓骨遠位骨端軟骨損傷)</p> <p>について学習する。</p> | <p>① 対象とする部位の構造と機能を説明できる。</p> <p>② 特定の運動と損傷との関係を説明できる。</p> <p>③ 損傷発生のメカニズムを説明できる。</p> <p>④ 損傷のテスト法・評価方法を説明できる。</p> <p>⑤ 損傷の基本的な治療方針を説明できる。</p> | 木村友飛 |
| 14 | 通年 | <p>14. 足関節部の損傷</p> <p>F. 足関節部の軟部組織損傷</p> | ① 外傷と疾患について業務内疾患・業務外疾患や、鑑別疾患について理解し説明できる。 | 木村友飛 |

| | | | | |
|--------|----|--|---|------|
| | | <p>① 注意すべき疾患 (1 変形性足関節症 2 外果や内果部の過剰骨)</p> <p>について学習する。</p> | | |
| 15 | 通年 | <p>15. 足・趾部の損傷</p> <p>G. 足・趾部の軟部組織損傷</p> <p>① 中足部から後足部の有痛性疾患 (a.セーバー病 b.アキレス腱滑液包炎 c.有痛性外脛骨 d.踵骨棘および足底腱膜炎 e.第1ケラー病 f.足根管症候群)</p> <p>② 前足部の有痛性疾患 (a.外反母趾 b.強剛母趾 c.種子骨障害 d.第2ケラー病 e.モートン病)</p> <p>について学習する。</p> | <p>① 対象とする部位の構造と機能を説明できる。</p> <p>② 特定の運動と損傷との関係を説明できる。</p> <p>③ 損傷発生のメカニズムを説明できる。</p> <p>④ 損傷のテスト法・評価方法を説明できる。</p> <p>⑤ 損傷の基本的な治療方針を説明できる。</p> | 木村友飛 |
| 16 | 通年 | <p>16. 足・趾部の損傷</p> <p>H. 足・趾部の軟部組織損傷</p> <p>① 注意すべき疾患 (1 痛風発作 2 糖尿病性障害 3 関節リウマチによる足部の障害 4 足部の血行障害)</p> <p>について学習する。</p> | <p>① 外傷と疾患について業務内疾患・業務外疾患や、鑑別疾患について理解し説明できる。</p> | 木村友飛 |
| 17 | 通年 | <p>17. まとめ</p> <p>定期試験</p> | <p>① これまで学習した身体評価法 (検査法・測定法など) について、意義と目的、注意点を説明できる。</p> <p>② これらの検査結果から身体の現症について総合的に評価、説明ができる。</p> <p>③ 総合的な評価結果から柔道整復術から生じる可能性のあるリスクや事故を考察して予防を講じることができる。</p> | 木村友飛 |
| 成績評価方法 | | <p>総合点数を (100%または 100 点) に換算。 (成績評価は科目試験 60%、レポート提出、小試験を 40%含む)</p> | | |

| | |
|--------|---|
| 準備学習など | <ul style="list-style-type: none"> ① 当該項目にあたる教科書や配布資料、参考書等を事前に復讐しておく。 ② 講義中の私語、携帯端末使用は原則禁止する。 ③ 復習を重視しているので確認テスト（小テスト）を複数回行う場合がある。 ④ 適宜ディベートやグループディスカッションを行う。 ⑤ パワーポイントや配布資料に基づいて授業を行うことがある。 ⑥ 学習状況や進捗状況に応じて授業計画を一部変更する場合がある。 |
|--------|---|

| | |
|----------|--|
| 学科・年次 | 柔道整復科・2学年 |
| 科目名 | 基礎実技Ⅱ |
| 担当者 | 近藤英隆 |
| 単位数（時間数） | 1単位（34時間） |
| 学習方法 | 講義（座学・ビデオ鑑賞・デモンストレーション）、個人ならびにグループ実習 |
| 教科書・参考書 | 公益法人全国柔道整復学校協会監修指定教科書（柔道整復学理論編・実技編、リハビリテーション医学、運動学、解剖学、生理学、一般臨床医学） 理学療法評価学（金原出版）、診察と手技が見える（メディックメディア） |

| |
|--|
| 授業概要と目的 |
| <p>基礎実技Ⅱでは、「身体評価法」の基礎を学習する。「評価に始まり評価に終わる」と称されるほど「身体評価」は柔道整復術を施術し効果を判定するうえで必要不可欠な課題である。事前に対象者から情報収集を行うところから判定にいたるまでの評価過程（方法論・検査技術）を整形外来やリハビリテーション科で実務経験のある専任講師が担当する。</p> <p>1学年で学んだ基本的な知識（解剖学・生理学・運動学等）を基に、グループワークを通じて、基本的な人体測定（上下肢長や周径等）や検査方法（ROM、MMT、バイタル測定や腱反射等）の基礎について、臨地実習や柔道整復師国家試験問題に相当する知識を中心に学習する。また、測定、検査を正確に実施し得られた検査結果を正確に記録し、そのデータから身体の現症について評価、考察することを学習する。</p> |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|--|---------------------------------|------|
| 1 | 前期 | 1. ガイダンス 身体評価について、評価法（検査法や測定法）の概略を知る。 | ① 身体評価（検査法・測定法）の実施に関する意義と目的を知る。 | 近藤英隆 |

| | | | | |
|---|----|---|---|------|
| 2 | 前期 | 2. 身体計測 上肢の測定法 講師のデモンストレーション後、 学生同士でメジャー測定し記録 する。 | ① 上肢の測定・検査方法の基礎について 意義と目的を指導者やパートナーに 説明できる。 ② 上肢の測定をパートナーに正しく愛 護的に実施できる。 ③ 上肢の測定結果から身体の現症につ いて評価、考察ができる。 | 近藤英隆 |
| 3 | 前期 | 3. 身体計測 下肢の測定法 デモンストレーション後、学生同 士でメジャー測定し記録する。 | ① 下肢の測定・検査方法の基礎について 意義と目的を指導者やパートナーに 説明できる。 ② 下肢の測定をパートナーに正しく愛 護的に実施できる。 ③ した肢の測定結果から身体の現症に ついて評価、考察ができる。 | 近藤英隆 |
| 4 | 前期 | 4. 身体計測 体幹の測定法 講師のデモンストレーション後、 学生同士でメジャー測定し記録 する。 | ① 体幹の測定・検査方法の基礎について 意義と目的を指導者やパートナーに 説明できる。 ② 体幹の測定をパートナーに正しく愛 護的に実施できる。 ③ 体幹の測定結果から身体の現症につ いて評価、考察ができる。 | 近藤英隆 |
| 5 | 前期 | 5. ROM (関節可動域測定) 概論・基礎編 | ① 関節可動域測定の基礎について意義 と目的を理解できる。 ② 関節可動域の制限因子について説明 できる。 ③ 関節の終末感について説明できる。 ④ 測定道具の使用法や注意点につ いて説明できる。 ⑤ 関節角度の表記ができる。 | 近藤英隆 |
| 6 | 前期 | 6. ROM (関節可動域測定) 上肢 (1) デモンストレーション後学生同 士で実施する。 | ① 上肢の基本的な関節可動域測定の基 礎について意義と目的、注意点などを 理解できる。 ② 患者歴 (生活歴・職歴・スポーツ歴等) を聴取できる。 ③ 上肢の基本的な関節可動域測定につ いて実施できる。 ④ 上肢の関節可動域測定の検査結果か | 近藤英隆 |

| | | | | |
|---|----|---|--|------|
| | | | ら身体の現症について評価、説明ができる。 | |
| 7 | 前期 | 7. ROM (関節可動域測定) 上肢 (2) デモンストレーション後学生同士で実施する。 | ① 上肢の基本的な関節可動域測定の基礎について意義と目的、注意点などを理解できる。 ② 患者歴 (生活歴・職歴・スポーツ歴等) を聴取できる。 ③ 上肢の基本的な関節可動域測定について実施できる。 ④ 上肢の関節可動域測定の検査結果から身体の現症について評価、説明ができる。 | 近藤英隆 |
| 8 | 前期 | 8. ROM (関節可動域測定) 下肢 (1) デモンストレーション後学生同士で実施する。 | ① 下肢の基本的な関節可動域測定の基礎について意義と目的、注意点などを理解できる。 ② 患者歴 (生活歴・職歴・スポーツ歴等) を聴取できる。 ③ 下肢の基本的な関節可動域測定について実施できる。 ④ 下肢の関節可動域測定の検査結果から身体の現症について評価、説明ができる。 | 近藤英隆 |
| 9 | 前期 | 9. ROM (関節可動域測定) 下肢 (2) デモンストレーション後学生同士で実施する。 | ① 下肢の基本的な関節可動域測定の基礎について意義と目的、注意点などを理解できる。 ② 患者歴 (生活歴・職歴・スポーツ歴等) を聴取できる。 ③ 下肢の基本的な関節可動域測定について実施できる。 ④ 下肢の関節可動域測定の検査結果から身体の現症について評価、説明ができる。 | 近藤英隆 |

| | | | | |
|----|-----|---|---|------|
| 10 | 前 期 | <p>10. ROM（関節可動域測定）</p> <p>体幹（1）</p> <p>デモンストレーション後学生同士で実施する。</p> | <p>① 体幹の基本的な関節可動域測定の基礎について意義と目的、注意点などを理解できる。</p> <p>② 患者歴（生活歴・職歴・スポーツ歴等）を聴取できる。</p> <p>③ 体幹の基本的な関節可動域測定について実施できる。</p> <p>④ 体幹関節可動域測定の検査結果から身体の現症について評価、説明できる。</p> | 近藤英隆 |
| 11 | 前 期 | <p>11. ROM（関節可動域測定）</p> <p>体幹（2）</p> <p>デモンストレーション後学生同士で実施する。</p> | <p>① 体幹の基本的な関節可動域測定の基礎について意義と目的、注意点などを理解できる。</p> <p>② 患者歴（生活歴・職歴・スポーツ歴等）を聴取できる。</p> <p>③ 体幹の基本的な関節可動域測定について実施できる。</p> <p>④ 体幹関節可動域測定の検査結果から身体の現症について評価、説明できる。</p> | 近藤英隆 |
| 12 | 前 期 | <p>12. MMT（徒手筋力検査法）</p> <p>上肢（1）</p> <p>デモンストレーション後学生同士で実施する。</p> | <p>① 上肢の基本的な徒手筋力検査法の基礎について意義と目的を理解できる。</p> <p>② 上肢の対象となる運動に関わる筋の起始、停止、支配神経、髄節レベルを説明できる。</p> <p>③ 上肢の徒手筋力検査法の注意点を説明できる。</p> <p>④ 上肢の基本的な徒手筋力検査法について実施できる。</p> <p>⑤ 上肢の徒手筋力検査の検査結果から身体の現症について評価できる。</p> | 近藤英隆 |

| | | | | |
|----|----|---|---|------|
| 13 | 前期 | <p>13. MMT（徒手筋力検査法）</p> <p>上肢（2）</p> <p>デモンストレーション後学生同士で実施する。</p> | <p>① 上肢の基本的な徒手筋力検査法の基礎について意義と目的を理解できる。</p> <p>② 上肢の対象となる運動に関わる筋の起始、停止、支配神経、髄節レベルを説明できる。</p> <p>③ 上肢の徒手筋力検査法の注意点を説明できる。</p> <p>④ 上肢の基本的な徒手筋力検査法について実施できる。</p> <p>⑤ 上肢の徒手筋力検査の検査結果から身体の現症について評価できる。</p> | 近藤英隆 |
| 14 | 前期 | <p>14. MMT（徒手筋力検査法）</p> <p>下肢（1）</p> <p>デモンストレーション後学生同士で実施する。</p> | <p>① 下肢の基本的な徒手筋力検査法の基礎について意義と目的を理解できる。</p> <p>② 下肢の対象となる運動に関わる筋の起始、停止、支配神経、髄節レベルを説明できる。</p> <p>③ 下肢の徒手筋力検査法の注意点を説明できる。</p> <p>④ 下肢の基本的な徒手筋力検査法について実施できる。</p> <p>⑤ 下肢の徒手筋力検査の検査結果から身体の現症について評価できる。</p> | 近藤英隆 |
| 15 | 前期 | <p>15. MMT（徒手筋力検査法）</p> <p>下肢（2）</p> <p>デモンストレーション後学生同士で実施する。</p> | <p>① 下肢の基本的な徒手筋力検査法の基礎について意義と目的を理解できる。</p> <p>② 下肢の対象となる運動に関わる筋の起始、停止、支配神経、髄節レベルを説明できる。</p> <p>③ 下肢の徒手筋力検査法の注意点を説明できる。</p> <p>④ 下肢の基本的な徒手筋力検査法について実施できる。</p> <p>① 下肢の徒手筋力検査の検査結果から身体の現症について評価できる。</p> | 近藤英隆 |

| | | | | |
|--------|----|--|--|------|
| 16 | 前期 | <p>16. MMT (徒手筋力検査法)</p> <p>頰部・体幹 (1)</p> <p>デモンストレーション後学生同士で実施する。</p> | <p>① 頰部・体幹の基本的な徒手筋力検査法の基礎について意義と目的を理解できる。</p> <p>② 頰部・体幹の対象となる運動に関わる筋の起始、停止、支配神経、髄節レベルを説明できる。</p> <p>③ 頰部・体幹の徒手筋力検査法の注意点を説明できる。</p> <p>④ 頰部・体幹の基本的な徒手筋力検査法について実施できる。</p> <p>⑤ 頰部・体幹の徒手筋力検査の検査結果から身体の現症について評価できる。</p> | 近藤英隆 |
| 17 | 前期 | <p>17. これまでのまとめ</p> <p>定期試験</p> | <p>⑥ これまで学習した身体評価 (検査法・測定法) を総合的にみて、意義と目的、注意点を理解できる。</p> <p>⑦ これまで実施した検査結果から身体の現症について総合的に評価、説明ができる。</p> <p>⑧ 総合的な評価結果から柔道整復術から生じる可能性のあるリスクや事故を考察して予防を講じることができる。</p> | 近藤英隆 |
| 成績評価方法 | | <p>成績評価は客観試験 60%、レポート 3 課題提出・受講態度(実技試験を含む)40% 総合点数を (100%または 100 点) に換算。</p> | | |
| 準備学習など | | <p>柔整セット (メジャー、打腱器、ゴニオメータ等) の持参。</p> <p>基本的には白衣・実習服の着用を義務付ける (実習を行うにあたり行きやすい恰好として短パンやTシャツなどを適宜認める)。</p> <p>① 当該項目にあたる教科書や配布資料、参考書等を事前に復讐しておく。</p> <p>② 講義中の私語、携帯端末使用は原則禁止する。</p> <p>③ 復習を重視しているので確認テスト (小テスト) を複数回行う場合がある。</p> <p>④ 適宜ディベートやグループディスカッションを行う。</p> <p>⑤ パワーポイントや配布資料に基づいて授業を行うことがある。</p> <p>⑥ 学習状況や進捗状況に応じて授業計画を一部変更する場合がある。</p> | | |

| | |
|----------|---|
| 学科・年次 | 柔道整復学科・2学年 |
| 科目名 | 基礎実技Ⅲ |
| 担当者 | 菊本智史 |
| 単位数（時間数） | 1単位（34時間） |
| 学習方法 | 講義（座学、超音波画像観察装置の画像学習、その他の画像学習）実技 |
| 教科書・参考書 | 柔道整復学理論編および実技編・施術の適応と医用画像の理解・整形外科学・一般臨床医学（全国柔道整復協会監修）など |

| |
|--|
| 授業概要と目的 |
| <p>柔道整復師として経験のある教員が担当する。柔道整復師が現場で遭遇するであろう疾患、外傷の画像診断について、整形外科の教科書を参考にしながら学習する。レントゲン、CT、MRI、超音波、電気生理学的検査などはどのような時に用いられるか、またその読影法について学ぶ</p> <p>各種検査法を学んだ後は、脊椎、四肢関節の正常像および、これらの疾患、外傷の画像診断法について学習する</p> |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|-----------------------------------|---|------|
| 1 | 前期 | ①オリエンテーション ②X線、CTの特徴と見かたについて学ぶ | ②X線、CTの利点、欠点およびどのような時に用いられるかを理解する。 また、これらの画像の見かたについて学ぶ | 菊本智史 |
| 2 | 前期 | MRIの原理、特徴と見かたについて学ぶ | MRIの利点、欠点およびどのような時に用いられるかを理解する。 また、これらの画像の見かたについて学ぶ | 菊本智史 |
| 3 | 前期 | 造影検査の特徴と見かたについて学ぶ | 造影検査はどのような時に用いられるかを理解する。 また、これらの見かたについて学ぶ | 菊本智史 |
| 4 | 前期 | 核医学検査の特徴と見かたについて学ぶ | 核医学検査はどのような時に用いられるかを理解する。 また、これらの見かたについて学ぶ | 菊本智史 |
| 5 | 前期 | 超音波検査について学ぶ | 超音波検査はどのような時に用いられるかを理解する。 また、これらの見かたについて学ぶ | 菊本智史 |
| 6 | 前期 | 超音波検査検査について学ぶ | 超音波検査はどのような時に用いられるかを理解する。 また、これらの見かたについて学ぶ | 菊本智史 |

| | | | | |
|--------|----|--|---|------|
| 7 | 前期 | 画像診断法のまとめと試験 | 画像診断法の利点と欠点および読影法の原則を理解し説明できる | 菊本智史 |
| 8 | 前期 | 頸椎の画像診断法 頸椎の正常像、頸椎疾患の画像診断について学ぶ | 頸椎の正常像および頸椎症、頸椎症性根障害、頸椎症性脊髄症、後縦靭帯骨化症などの画像診断ができるようになる | 菊本智史 |
| 9 | 前期 | 胸椎・腰椎の画像診断法 胸腰椎の正常画像、胸腰椎疾患の画像診断について学ぶ | 胸腰椎の正常像および側弯症、変形性腰椎症、腰椎椎間板ヘルニア、腰椎すべり症などの画像診断ができるようになる | 菊本智史 |
| 10 | 前期 | 肩関節の画像診断 肩関節の正常像および肩関節疾患の画像診断について学ぶ | 肩関節の正常像および腱板損傷、バンカーズ損傷、SLAP 損傷、などの画像診断ができるようになる | 菊本智史 |
| 11 | 前期 | 肘関節の画像診断 肘関節の正常像および肘関節疾患の画像診断について学ぶ | 肘関節の正常像および少年野球肘、離断性骨軟骨炎などの画像診断ができるようになる | 菊本智史 |
| 12 | 前期 | 手関節の画像診断 手関節の正常像および手関節疾患の画像診断について学ぶ | 手関節の正常像および橈骨遠位端骨折、舟状骨骨折などの画像診断ができるようになる | 菊本智史 |
| 13 | 前期 | 股関節の画像診断 股関節の正常像および股関節疾患の画像診断について学ぶ | 股関節の正常像およびペルテス病、大腿骨頭すべり症、大腿骨頭壊死などの画像診断ができるようになる | 菊本智史 |
| 14 | 前期 | 膝関節の画像診断 膝関節の正常像および股関節疾患の画像診断について学ぶ | 膝関節の正常像および半月板損傷、靭帯損傷、関節内骨折などの画像診断ができるようになる | 菊本智史 |
| 15 | 前期 | 足関節の画像診断 膝関節の正常像および股関節疾患の画像診断について学ぶ | 足関節の正常像および骨軟骨損傷、靭帯損傷などの画像診断ができるようになる | 菊本智史 |
| 16 | 前期 | 骨傷の画像診断 骨折が超音波、X線診断について学ぶ | 骨折の超音波画像とX線画像の比較を学び理解できるようになる | 菊本智史 |
| 17 | 前期 | 疾患各論の画像診断のまとめと試験 | 各疾患と画像の特徴について総合的に考えられるようになる | 菊本智史 |
| 成績評価方法 | | 小テスト（50%）＋定期試験または実技試験（50%） | | |

| | |
|----------|------------------------|
| 学科・年次 | 柔道整復科・2 学年 |
| 科目名 | 臨床実習Ⅲ |
| 担当者 | 鈴木雅夕 |
| 単位数（時間数） | 2 単位（90 時間） |
| 学習方法 | 学外の接骨院へ実習に行き、現場の経験を踏む。 |
| 教科書・参考書 | 臨床実習の手引き（東海医療科学専門学校編） |

| |
|---|
| 授業概要と目的 |
| <p>講義・演習や実技で学んだ知識や技能をもとに、柔道整復施術所にて豊富な臨床経験を有する柔道整復師の指導・助言を受けながら具体的・個別的に柔道整復術を実践するものであり、2 週間にて数か所の施術所を実習地とし柔道整復術に対するニーズを把握すると共に、柔道整復師がどうあるべきかを考察することを目的とする。</p> <p>柔道整復師として接骨院等で臨床経験のある者が、その経験を活かして実習を行う。</p> |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|--|--|------|
| 1～3 日 | 後 期 | <ul style="list-style-type: none"> 接骨院で働く柔道整復師についての理解を深める 接骨院の業務について指導者の下で実施・体験する。 | <ul style="list-style-type: none"> 接骨院での業務の1日の流れを説明できる。 接骨院での患者に対応する業以外務についても理解し実施することが出来る。 接骨院に来院する患者の病態把握ができる。 接骨院での業務の一部を指導者の指示の下で行うことが出来る。 | 鈴木雅夕 |
| 4～6 日 | 後 期 | <ul style="list-style-type: none"> 接骨院で働く柔道整復師についての理解を深める 接骨院の業務について指導者の下で実施・体験する。 | <ul style="list-style-type: none"> 接骨院での業務の1日の流れを説明できる。 接骨院での患者に対応する業以外務についても理解し実施することが出来る。 接骨院に来院する患者の病態把握ができる。 接骨院での業務の一部を指導者の指示の下で行うことが出来る。 | 鈴木雅夕 |
| 7～9 日 | 後 期 | <ul style="list-style-type: none"> 接骨院で働く柔道整復師についての理解を深める 接骨院の業務について指導者の下で実施・体験する。 | <ul style="list-style-type: none"> 接骨院での業務の1日の流れを説明できる。 接骨院での患者に対応する業以外務についても理解し実施することが出来る。 | 鈴木雅夕 |

| | | | | |
|--------|---|--|--|------|
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ・接骨院に来院する患者の病態把握ができる。 ・接骨院での業務の一部を指導者の指示の下で行うことができる。 | |
| 10～12日 | 後期 | <ul style="list-style-type: none"> ・接骨院で働く柔道整復師についての理解を深める ・接骨院の業務について指導者の下で実施・体験する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・接骨院での業務の1日の流れを説明できる。 ・接骨院での患者に対応する業以外務についても理解し実施することができる。 ・接骨院に来院する患者の病態把握ができる。 ・接骨院での業務の一部を指導者の指示の下で行うことができる。 | 鈴木雅夕 |
| 成績評価方法 | 各実習地先の柔道整復師(実習指導者)より臨床実習で行った内容を元に評価を評価表(実習の手引きに記載)に記入してもらい、各指導者の評価表を合わせて評価する。 | | | |
| 準備学習など | 実習の手引きを読んでおく。 | | | |
| | | | | |